

日誌記載

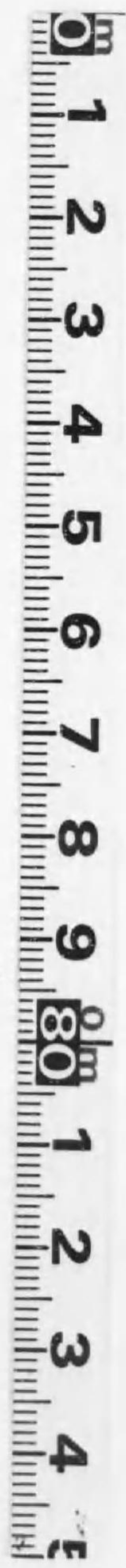
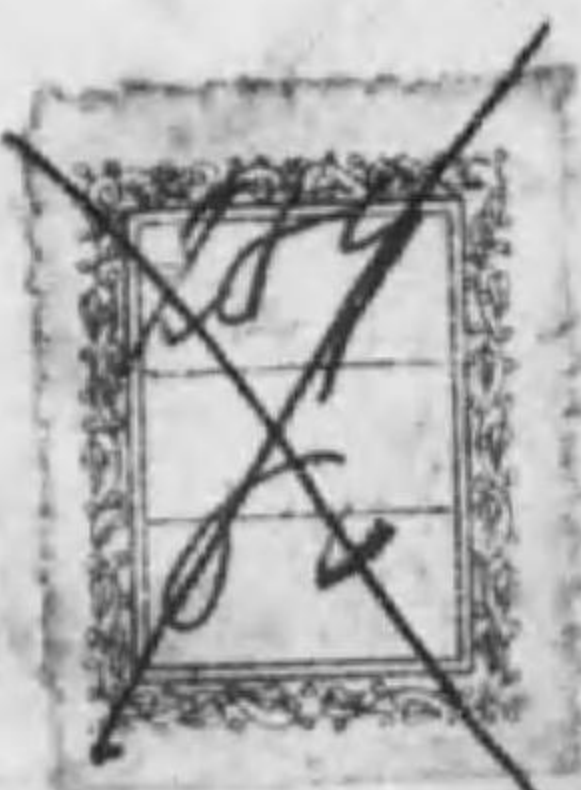
作文例題

術語界說



大阪

士學館發行



始



特114
43

海士學館編纂

日誌
作文
術語

問題集

中山海士學館藏版



○ 試驗日誌記載心得目次

○ 碇泊中.....	二
○ 航行中.....	二
○ 霧中.....	三
○ 荒天.....	三
○ 障害物發見.....	三
○ 航路標識ノ移動.....	四
○ 放錨避難.....	四
○ 人ノ投水.....	四
○ 海難人命救助.....	五
○ 難破船救助.....	五

大正
11. 4. 28
内交

海軍省
海軍大學校
圖書部
圖書印
圖書部
圖書印
圖書部
圖書印

○ 火	災	五
○ 衝	突	六
○ 走錨	接觸	六
○ 乘客行衛不明		六
○ 出港記事記載例		七
○ 航行中ノ記事記載例		八
○ 入港記事記載例		十
○ 航行中常時記事		十三
○ 霧中航行中記事		十三
○ 帆船暴風雨ニ遭遇ノ記事		十四
○ 遭難船救助ノ記事		十四

○ 汽船衝突顛末ノ記事	十五
○ 碇泊中他船出火救援ニ赴キタル記事	十六
○ 投水者救助ノ記事	十六
○ 沈船發見ノ記事	十七
○ 他船走錨シテ接觸ノ記事	十八
○ 航行中他船ト信號交換ノ記事	十九
○ 吹雪ニ遭遇シ漂廻シタル記事	十九
○ 甲板積貨物ヲ打荷シタル記事	二十
○ 颶風ニ遭遇シ且ツ變潮ノ爲メ船位推測ヨリ著シク相違シ居タル記事	二十
○ 普通貨物中ヨリ爆發物ヲ發見シタル記事	二十一
○ 颶風ニ遭遇シ舵機ヲ破損シタル記事	二十二
○ 例題集	二十二

●官船用日誌記載心得●

○ 十二項ノ見出しノ事柄	二十九
○ 官用日誌ノ編成方	三十
○ 官廳記事	三十一
○ 顛末記事ノ記入	三十一
○ 船用航海日誌	三十二
○ 日誌記載上ノ注意	三十四
○ 各欄ノ記載方	三十五
一 風力表	三十六
一 風ノ種類	三十七
一 天候符號表	三十八
○ 記事欄ニ記入スヘキ事柄	四十一
一 海波ノ符號表	四十二
一 波浪ノ符號表	四十三
一 雲ノ種類及符號表	四十五

○海難報告例目次

○ 流水ノ爲メ舵ヲ破損シ豫定外ノ港ニ入港シタル報告書	一
○ 帆船遭難ノ報告書	三
○ 遭難帆船ヲ救助シ曳入シタル顛末報告書	四
○ 颶風ニ遭遇シタル顛末報告書	五
○ 水夫溺死ノ顛末報告書	六
○ 航行中船客海中ニ投水シ自殺シタル顛末ノ報告書	七

○國語作文例集目次

○ 船友に贈る新年の祝文	九
○ 春季友人に遺す文	九
○ 暑中友人に贈る文	〇
○ 中秋友人に送る文	一
○ 寒中友人に送る文	一
○ 乗船報知の文	二
○ 轉船報知の文	二
○ 出帆を友人に報する文	三
○ 風災後の安否を問ふ文	三

○ 遭難を友人に報する文	二四
○ 受験を勧誘する文	二五
○ 試験科目を問合す文	二六
○ 不合格となりたる友人を慰むる文	二七
○ 試験合格を通知し乗船の幹旋を頼む文	二七
○ 友人の就職を祝し將來を戒むる文	二八
○ 友人に交代を懇望する文	二八
○ 乗船の幹旋を謝する文	二九
○ 人を紹介する文	二九
○ 遭難者の遺族を慰むる文	三〇
○ 進水式案内の文	三一
○ 造船設計を依頼する文	三一
○ 運賃の未収を督促する文	三二
○ 荷受を断る文	三二
○ 荷客の有無を問合す文	三二
○ 運賃を問合す文	三三
○ 商況を問合す文	三三
○ 貨物の損害賠償の申込みを謝絶する文	三三
○ 貨物の包装不完全なるを以て改良を貨主に勧告する文	三四

○ 出港報知の文	二五
○ 着港報知の文	二五
○ 新造船着手を船主に報する文	二五
○ 試運轉の成績を船主に報する文	二六
○ 定期検査の結果を船主に報知する文	二六
○ 船用品の増備を船主に請求する文	二七
○ 検査期日の繰上げを船主に具申する文	二七
○ 羅針儀据付技師の派遣を船主に要求する文	二七
○ 難破船を救助したる旨を船主に報告する文	二八
○ 天保不良の爲め某港に避難したる旨を船主に報告する文	二八
○ 航海中暴風に遭遇せし旨を船主に報告する文	二九
○ 遭難の状況を船主に報告する文	三〇
○ 碇泊中他船と接觸し少損害を與へたる始末を船主に報告する文	三一
○ 碇泊中暴風の爲め錨鎖を切斷せられ辛ふじて沖合に避難したる顛末を船主に報告する文	三一
○ 船員雇入に付き撰擇を船主に要求する文	三二
○ 航海先きに於て備船契約をなしたるを船主に報告する文	三三
○ 航路の現況を報じ航海廢止を船主に勧誘する文	三五
○ 解備を船主に乞ふ文	三六

○試驗出題作文類別目次

○注 文の文	三六
○見 舞の文	三七
○催促(促ス、督促)文	三七
○招待(誘フ)文	三七
○悔ム(吊辞、慰問)文	三七
○紹介	三七
○詫	三七
○謝絶(拒絶、斷)文	三八
○謝スル	三八
○賀(祝)スル	三八
○問合セ	三九
○依頼(頼ム、乞フ)文	三九
○通知(報知、知ラス、報ズル)文	四〇
○勸告(勸ムル)文	四一
○回答(返事)文	四一
○注意(注告)文	四一
○船主ニ請フ(要求、請求)文	四二
○船主ニ報告(通知、具申)文	四二
○雜	四四
○官公署へ建議(報告)文	四四

次 目

1 圓体	Sphere	11 孤角(一名)圓角	Spherical angle
2 中心	Centre	12 餘角	Complement
3 半徑	Radius	13 補角	Supplement
4 直徑	Diameter	14 球	Globe
5 截面	Section	15 航海術	Navigation
6 大圈	Great circle	16 地球	Earth
7 小圈	Small circle	17 地軸	Earth pole
8 軸	Axis	18 地極	Earth axis
9 極	Pole	19 赤道	Equator
10 正交係	Scamully	20 子午線	Meridian

◎航海ニ關スルニ 用語之説明和英對照

次 目

21 本初子午線(一名)原基子午線	Prime meridian	32 中分緯度	Middle latitude
22 緯圈	Parallels of latitude	33 變緯	Difference of latitude
23 至規線(一名)回歸線	Tropic	34 變經	Difference of longitude
24 極圈	Polar circle	35 東西距離	Departure
25 熱帶	Torrid-zone	36 視直鍼線	Rhumb line
26 寒帶	Frigid-zone	37 鍼路	Course
27 溫帶	Temperate-zone	38 磁氣子午線	Magnetic meridian
28 緯度	Latitude	39 磁氣赤道	Magnetic Equator
29 餘緯度	Co-latitude	40 磁氣緯度	Magnetic latitude
30 經度	Longitude	41 方位	Bearing
31 漸長緯度	Meridional latitude	42 偏差	Variation
		43 自差	Deviation

次 目

44 羅盤ノ違差	Error of compass	55 平面航法	Plane sailing
45 交叉方位	Cross bearing	56 緯線航法(一名)東西針路	Parallel sailing
46 四點方位	Four point bearing	57 斜針路	Oblique sailing
47 互測方位(一名)相互方位	Reciprocal bearing	58 聯針路	Transverse sailing
48 起程緯度	Latitude from	59 中分緯度法	Middle latitude sailing
49 起程經度	Longitude from	60 碼氏航法(一名)漸長緯度法	Mercator's sailing
50 已達緯度	Latitude in	61 大圈航法	Great circle sailing
51 已達經度	Longitude in	62 大圈ノ頂點	Vertex of a great circle
52 直行距離	Distance	63 水平	Horizon
53 航跡線	Track	64 視地平(一名)視水平	Visible Horizon
54 風壓	Leeway		

次 目

65 地水平(一名)海水平	Sensible horizon	76 至規點	Solsto point
66 真地平	Artifail horizon	77 天頂	Zenith
67 人造地平(一名)假水平	Artificial horizon	78 躡點	Nadir
68 航海天文	Nautical yronomy	79 天子午線	Celestial meridian
69 天球	Celestial concave	80 高度圈(一名)垂直圈	Vertical circle
70 天軸	Celestial axis	81 東西圈	Prime vertical
71 天極	Celestial pyle	82 六時圈	Six-hour circle
72 天赤道	Celestial equator	83 赤緯圈(一名)時圈	Circle of declination
73 軌道	Orlit	84 赤緯	Declination
74 黃道	Ecliptic	85 極距	Polar-distance
75 晝夜平分點	Equinoctial point	86 赤經	Right ascension
		87 黃緯	Celestial latitude

次 目

88 黃經	Celestial longitude	99 視高度	Apparent altitude
89 高度	Altitude	100 真高度	True altitude
90 天頂距	Zenst distance	101 子午線高度	Meridian altitude
91 測高度	Observed aithudo	102 時角	Hourangle
92 測器差	Index error	103 方位角	Azimuth
93 潛地差	Dip	104 出沒方位	Amplitude
94 視差	Parallax	105 太陽年	Solar year
95 地平視差	Horizontal parallax	106 恒星年	Sidereal year
96 半徑差	Semidiameter	107 中數太陽年	Mean solar year
97 太陰半徑漸長率	Augmentation of moons semidiameter	108 常用年	Calendar year
98 濛氣差	Refraction	109 太陽日	Apparent solar day
		200 恒星日	Sidereal day

次 目

111	平日	Mean solar day
112	想像太陽	Mean sun
113	恒星時	Sidereal time
114	真時	Apparent time
115	平時	Mean time
116	時差率(一名)平時法	Equation time
117	天文時	Astronomical time
118	常用時	Civil time
119	子午線中時	Meridian passage
120	真正午	Apparent noon
121	平時ノ正午	Mean noon
122	標準時	Standard time
~~~~~		
123	海流	Current
124	潮汐	Tide
125	潮望潮	Full and change tide
126	漲落潮	Flood and ebb tide
127	昇降潮	Rise and fall tide
128	潮流	Stream
129	大小潮	Spring and neaps tide
130	大小潮升	Spring and neaps rise
131	大小潮差	Spring and neaps range
132	潮時率(一名)變潮時	Establishment or change tide
133	半潮	Half tide

次 目

134	半續潮	Tide and half tide
135	小半續潮	Tide and quarter tide
136	日潮不等	Diurnal inequality
137	週潮不等	Semimonthual in equality
138	憩潮	Slack water
139	駛潮(一名)競潮	Tide race
140	順潮	Lee tide
141	逆潮	Water tide
142	海風	Sea breeze
143	陸風	Land breeze
144	恒信風(一名)恒風	Trade wind
145	信風(一名)季候風	Monsoon
~~~~~		
146	颶風	Cyclone, Hurricane
147	颯	Gale
148	颯	Squall
149	變風	Variable wind
150	運用術	Seamanship
151	右舷開キ	Starboard tack
152	左舷開キ	Port tack
153	詰開キ	Close-hauled
154	逆轉(一名)上手廻	Tacking
155	順轉(一名)下手廻	Wearing
156	船尾回轉法(一名)	Box-hauling

次 目

168	航行羅盤	Steering compass	180	鏡	Cable
167	船用羅盤	Mariner's compass	179	哩	Mile
166	守錨法	Tending ship	178	圓材	Spar
165	羈泊	Mooring	177	動索	Running rigging
164	放泊	Single anchor	176	靜索	Standing rigging
163	適帆	Trimming sail	175	海圖	Charts
162	起逆	Brought by the lee	174	晴雨計	Barometer
161	開逆	Brachium-to	173	六分儀	Sextant
160	荒天順走	Sounding	172	時辰儀(一名)經線儀	Chronometer
159	漂躡	Lying-to	171	ピロラス(一名)無針盤	Pelorus
158	脚躡法	Heave-to	170	天測羅盤	Azimuth compass
157	投錨逆轉	Club-hauling	169	本位羅盤	Standard compass

海士學館編纂

受 驗
適 用
日 誌
記 載

中山海士學館發行

次 目

157	投錨逆轉	Club-hauling	169	本位羅盤	Standard compass
158	脚踏法	Heave-to	170	天測羅盤	Azimuth compass
159	漂躡	Lying-to	171	ピロラス(一名)無針盤	Pelorus
160	荒天順走	Sounding	172	時辰儀(一名)經線儀	Chronometer
161	開逆	Be achin-to	173	六分儀	Sextant
162	起逆	Brought by the lee	174	晴雨計	Barometer
163	適帆	Triming sail	175	海圖	Charts
164	放泊	Single anchor	176	靜索	Standing rigging
165	錨泊	Mooring	177	動索	Raising rigging
166	守錨法	Tending ship	178	圓材	Spur
167	船用羅盤	Mariner's compass	179	湮	Mile
168	航行羅盤	Steering compass	180	鏈	Calyle

海士學館編纂

受 驗
適 用
日 誌
記 載

中山海士學館發行

中山海士學館發行

航海日誌簿

海士學館編輯

○ 試験日誌記載心得

國語ノ課目ニ日誌ノ記事ヲ課スルトキハ大抵船内ニ起リタル異變ノ處理ヲ記載サス
ノデアル

ソシテ其ノ記事モ左ノニツノ場合デアル

- 一 當 直 中
- 二 顛 末

當直中ナレバ自己四時間ノ當直中ニ其事變が起ツタモノトシテ記入スレバヨイガ極
末ダト始メヨリ終リマデ時間ノ多少ニカ、ワラズ書カネバナラヌ

【一ノ例】

某沖航行中正午ヨリ四時ニ至ル自己當直中轉覆漁船ヲ發見シタルト假定シテ救助及
ビ其處置ヲ航行日誌記事欄ニ記入スルガ如ク詳細ニ記入セヨ

「二ノ例」

汽船ニ在リテ航海中燃料石炭ヨリ發火ニ罹リ止ヲ得ズ某海岸ニ乘揚ゲタリト假定ノ
海難發生當時ノ船ノ位置船舶操縦及乗組員救助ノ方法等ニ關シ航海日誌記事欄内ニ
記入スル如ク詳細ニ記載スベシ
其題意ニヨリ必ズ記入セネバナラヌ事柄ハ

碇泊中

- 一 船首尾ノ喫水
- 二 錨鎖ノ伸縮並ニ尋數
- 三 二物標以上ノ交叉方位ニヨル方位(成可ク磁針方位ニ改メル
コト羅針方位ナレバ船首ノ方位ヲ記入スルコト)
- 四 其地ノ水深底質

航行中

- 一 測程機械ノ示度(嵐)
- 二 岬角、燈臺等ノ並航距離、方位
- 三 問題ニ付テノ要點ハ運用術ニヨリ假定記入スルコト

C

中

荒

天

- 一 適度ノ速力トスルコト
- 二 霧中信號ノコト(自船及他船)
- 三 見張人員ノ増加及配置場所
- 四 錘測ノ時刻
- 五 水深底質及推定位置
- 一 淦水及唧筒ニ注意シタルコト
- 二 移動物ノ固縛
- 三 舷門、艙口、天窓及舷窓ノ閉鎖
- 四 減帆ノ狀況(帆船)展帆ノ狀況(汽船)
- 五 空模様及海面、波浪ノ模様
- 一 發見ノ時ノ狀況
- 二 該物体ノ種類(岩礁、沈船等)
- 三 位置(經緯度及ヒ附近物標ノ磁針方位)
- 四 其形狀、物質及狀態
- 五 附近ノ水深底質
- 六 時刻、潮高ノ狀況

障害物發見

航路標識ノ移動

前二項ハ着港ノ上其筋ニ報告スベキ手續ヲナシタルコトヲモ記入スベシ

- 一 該標識ノ種類
- 二 流失或ハ移動ノ状態
- 三 表中ノ位置ト現在ノ位置ノ相違
- 四 現在位置ノ經緯度及他物標ノ方位

放 錨 避 難

- 一 揚錨不可能ノ理由及狀況
- 二 錨ノ種類及數
- 三 附着シタル浮標ノ種類
- 四 三物標ノ交叉方位
- 五 汽船ハ機關停止、帆船ハ脚蹻
- 六 救命浮環ノ投入（夜間ハ救命焰ヲモ附着ス）
- 七 卸ロシタル端艇ノ種類
- 八 搜索ノ方法
- 九 溺者ノ姓名、手當ノ方法、及身体ノ状態
- 十 入水ノ原因

人ノ投水

海難人命救助

- 一 手段ヲ盡シタル詳細
- 二 該船ヲ放棄スルニ至リタル順序
- 三 該船ノ状態
- 四 人命救助ノ順序
- 五 端艇數及ビ配置ノ人員
- 六 前後ノ天候及海面ノ模様
- 七 救助信號發見ノ狀況
- 八 該船舶ノ現狀
- 九 船種、船名、船籍港
- 十 救助人員、原籍、姓名
- 十一 曳船或ハ放棄始末
- 十二 發見ノ次第
- 十三 消防人員配置
- 十四 其方 法
- 十五 鎮火ノ狀況
- 十六 燒失ノ個所及損害程度

難 破 船 救 助

火 災

出港記事記載例

何時何分	手仕舞 (船首尾ノ喫水ヲ檢シ相當欄ニ記入ス)
〃 〃	蒸機試運轉 (汽) 出帆準備 (帆)
〃 〃	拔錨 [錨地ヲ放レ前進ヲ始メタル時刻]
〃 〃	解纜 [棧橋或ハ埠頭ヨリ出帆ノ場合]
〃 〃	微速前進
〃 〃	半速前進
〃 〃	全速前進
〃 〃	曳船何丸ヲ備フ
〃 〃	曳船解放(帆)
〃 〃	全帆開展
〃 〃	何燈臺 (或ハ何岬) 何鐘何方位ニ並航 或ハ右舷何湮ニ並航
〃 〃	定針 ログ 投入 [針路ハ各欄内ヘ別ニ記入シアル故定針轉針トノミ記入シテモヨシ]
〃 〃	水先人過船

衝

突

走

錨

接

觸

乗客行衛不明

- | | | | | | | | | | | | | | | |
|--|---------------|----------------|-------------|----------------------|--------------|-------------|-----------------|----------|------------------|---------------|---------|-----------|----------|----------|
| 一 | 二 | 三 | 四 | 五 | 一 | 二 | 三 | 四 | 五 | 一 | 二 | 三 | 四 | 五 |
| 他船燈火發見時刻、其距離、方位及變更ノ模様 (自船ノ燈火ニモ注目シタルコト) | 轉針、停止、後退及航路信號 | 衝突ノ箇所、狀態、損害ノ程度 | 衝突後ノ所置及救助方法 | 他船ノ種類、船名、船籍港及發航港、到達港 | 自船碇泊位置、水深及底質 | 投錨數及錨鎖延長ノ尋數 | 當時ノ天候、風位、風力、及流潮 | 附近碇泊船ノ狀態 | 走錨ノ原因、接觸狀態及損害ノ程度 | 本人行衛不明發見前後ノ模様 | 停船搜索ノ模様 | 遺書ノ有無、遺留品 | 立會保證人ノ姓名 | 着港後届出ノ官署 |

何時何分	天候俄カニ變ズ
〃 〃	滿空暗黒海水變色非常ノ景色トナル
〃 〃	風勢次第ニ加ハル
〃 〃	俄然強颯襲來ス
〃 〃	風位何方ニ變ジ一層猛烈トナル
〃 〃	降雨(或ハ驟雨大雨)
〃 〃	頃ヨリ暴風雨トナル
〃 〃	頃ヨリ劇雷暴雨凄シキ電光ヲ放チ恐シキ景色トナル
〃 〃	雷鳴止ミ雨勢少シク衰フ
〃 〃	頃ヨリ陰雲全天遂ニ雨トナル
〃 〃	頃ヨリ濛雨トナリ咫尺ヲ辨ゼズ
〃 〃	霧レ斷雲日光ヲ洩ラス
〃 〃	風力次第ニ衰フ
〃 〃	頃ヨリ風風ギ航力絶無流潮ニ漂航ス
九 〃 〃	深霧トナル霧中信號ヲナシ徐航ス
〃 〃	海上水煙ニ閉サレ陸岸ヲ認メ難シ時々鐘測ヲナス
〃 〃	{水深 何尋 {底質 何々

航行中ノ記事記載例

何時何分	針路何々ニ轉ズ (或ハ轉針トノミ記シ各欄ニ其針路ヲ記入ス)
〃 〃	逆風トナリ右舷(或ハ左舷)詰開トナス(帆)
〃 〃	逆轉 右舷(或ハ左舷)詰開キニ變ズ
〃 〃	順轉 右舷(或ハ左舷)ニ變開ス
〃 〃	順潮ニ縫航ス
〃 〃	何燈臺前ヲ通過ス
〃 〃	何岬(或ハ何鼻)何渚ニ並航測程機何渚ヲ示ス
〃 〃	風位不定速力減少ス
〃 〃	機關故障ノ爲メ速力半減ス(汽)
〃 〃	機關停止
〃 〃	微速力トス
〃 〃	頃ヨリ協潮ヲ受ク
〃 〃	逆潮トナル
	海上平波船体平穩
	何々方ヨリ膨濤アリ船体動搖ス
〃 〃	頃ヨリ高波トナリ船体搗動甚シ
〃 〃	頃ヨリ怒濤船内ニ打込ミ甲板ハ絶ズ海水ヲ滿タス
〃 〃	頃ヨリ浪少シク靜マル
〃 〃	頃ヨリ天候險惡トナル
〃 〃	何方ノ水平ニ險惡ナル亂雲現ハル
〃 〃	頃ヨリ空合惡シク暴風ノ兆アリ

入港記事記載例

何時何分 入港準備

〃 〃 何岬並航測程機ヲ收ム(瀛)針路不定トス

〃 〃 減帆着手(帆)機關順次微速トス(瀛)

〃 〃 投錨 (入港投錨ノトキハ錨地ノ水深底質錨鎖ノ延長ハ其相當欄ニ右左註何尋ト記入ス)

磁針方位 { 甲 岬 何々
乙 山 何々
丙 煙突 何々 }

〃 〃 貨物陸揚ニ掛ル

〃 〃 貨物陸揚ヲ終ル

陸揚貨物總員數何箇或ハ何噸

〃 〃 貨物積取ヲ始ム

〃 〃 貨物積切

積取貨物總員數何箇或ハ何噸

十一 〃 〃 船長上陸

〃 〃 氣象警報アリ錨鎖何尋ニ延長 瀛鐘點火ヲ命ズ

〃 〃 焚料石炭ヲ積取ル何噸

何時何分 何尋ノ錨索不達

〃 〃 輕帆ヲ減ズ(帆)
〔輕帆トハロヤル、フランジブ、ガフトツブスルヲ云フ〕

〃 〃 何帆ヲ減ズ(或ハ一縮二縮)

〃 〃 何帆ヲ吹破ラル

〃 〃 シブブーム折レ假修理ス

〃 〃 帝國軍艦何々何方ニ進行スルニ逢フ

〃 〃 何船何丸ニ會シ信號ヲ交換ス 其要旨何々

〃 〃 滄水ヲ排除ス殘水何時

〃 〃 逆潮ノ爲ノ何々ニ假泊ス

〔投錨ノトキハ水深、底質、錨鎖延長數、島、山、岬等ニツ以上ノ磁針方位ヲ測リ記ス〕

水深	何尋	{ 何島ノ磁針方位	何々
底質	何々	{ 何山ノ	〃
錨鎖	何々	{ 何岬ノ	〃
			何々

航行中常時記事

午 前

〇時二十五分 金華山燈臺左舷二湮ニ並航ログヲ改ム
三時十五分 郵船横濱丸ノ復航ニ遭フ
十時三十分 河内艦ノ北航ヲ認メ信號ヲナス
正 午 山田三湮沖ヲ通過ス海上平波船内静穩

霧中航行中記事

午 前

六時三十分 曉來深霧、海上平滑 鍾索150尋不達
霧中信號ヲ怠ラズ
七時〇分 右舷正横前ニ二三霧中號角ヲ聞ク
十一時三十分 漸次薄霧トナリ尻矢崎ヲ微カニ認ム
WbNニ越針

午 後

二時頃 ヨリ左舷船首ニ激湍ヲ受ケ
十三 二時二十分 天候俄ニ變ズ
三時三十分 頃ヨリSEノ風雨トナル 荒波船体ノ搗動甚シ
四時十分 函館頭右舷二湮並航ログヲ收ム 針路不定
四時五十分 投錨 海深六尋底質m 右舷錨鎖20尋

何時何分 飲料水何噸ヲ積納ス

甲板部員一同艙内掃除或ハ舷側錆打ニ從事ス
海員一同雇入或ハ更新ノ爲メ海事部ニ出頭
海員何某合意雇止或ハ何ノ誰舵夫トシテ採用
船長退職 後任船長何某赴任ス
總員検査準備ニ從事ス
警官某何々ノ件ニテ來船ス
天候不良ノ爲メ解船廻ラズ 荷役中止
天候不良ノ爲メ出港延期
本日船内異常ナシ (碇泊中船内ニ事故ナキトキハ毎ニ此ノ如ク記入ス)

汽船衝突顛末ノ記事

午 前

- 〇時 〇分 大角鼻左舷ニ並航、天候晴朗、海上平滑
- 二時 十分 右舷船首半點内外ニ當リ白紅綠ノ三燈ヲ表示シタル汽船ノ接近シ來ルヲ見ルニ三分ヲ經タルモ幾ント同方位ニアルヲ以テ約一點右轉ス
- 二時 十五分 他船ハ白綠ヲ表示シ左轉ノ趨勢ヲ以テ我ガ前面ヲ右舷ニ遮斷シ來リ衝突ノ危険免レ難キヲ示シタルニヨリ不得止臨機ノ處置トシテ短聲三發全速力後退ヲ掛ケタルモ前進ノ惰力全ク仰止セザル内他船ハ我前面ニ横リ來リ
- 二時 十七分 我船首ヲ以テ他船ノ右舷ヲ直角ニ衝突シタリ 其時後退ヲ停止シ彼我ノ損傷ヲ檢スルニ自船格別異狀ナシ 他船ハ重傷ニテ沈没計リ難キヲ以テ船客船員ノ移乗ニ從事シ救命浮環ヲ投ジ救命索ヲ垂下シ兩舷端艇ヲ悉ク卸シ極力人命ノ救助ニ努力シ異常ナク移乗セシム
- 二時 三十七分 他船沈没ノ位置
 {大角鼻ノ磁針方位 WbS 水¹⁹尋}
 {ミヅコノ岩ノ磁針方位 NbW 深¹⁹尋}
 該船ハ大阪某會社 汽船何丸 大阪ヨリ中國經由下ノ關ニ向フ往航中ナリシ

帆船暴風雨ニ遭遇ノ記事

午 後

- 〇時 〇分 風雨益々猛烈トナリ南方ノ怒濤船内ニ打込ミ甲板海水ニ滿タサル
- 三時 十分 前橋短縮ノ「アツバトツプスル」吹破ラル前後ノ「ロワトツプスル」及ビ短縮ノ「フオールコース」「フオールトツプマストステーヌル」ノ四帆トス
- 四時 二十分
- 五時 〇分 風雨益々激シク暗黒咫尺ヲ辨ゼズ激浪舳墻ヲ破リ端艇三艘ハ微塵ニ破壊サル
- 五時 三十分 氣壓 28,52吋ニ沈下シ風位 東方ニ廻リ暴威ヲ極ム

遭難船救助ノ記事

午 前

- 六時 十分 御前崎燈臺右舷六湮ニ並航ス
- 六時 二十分 左舷船首ニ當リ救助信號ヲ認ム 直ニ該船ニ向ケ轉針二三鏈ニ接近シ其状態ヲ見ルニ合ノ子船暴風ノ爲メ前橋及舵ヲ失ヒ船体ハ漏水ヲ生ジ沈没ニ瀕シ高浪ノ爲メ曳行不可能ナルヲ以テ船長外三名ヲ移乗セシメ船体ヲ放棄ス
- 位置 {北緯40°—30'N}
 {東經140°—20'E}
- 海難船 静岡縣賀茂郡大島村何某所
 有何百石積 何丸
 船長 全縣何村何ノ某外三名
 前日船籍港ヲ發シ何處ニ向フ途中夜來ノ暴風ノ爲メ此災ニ遭遇セシ趣キナリ

沈船發見ノ記事

午 前

- 四時〇分 海上平穩、天候晴天、南西ノ軟風ヲ受ケ航走中
- 四時五十分 天明ニ從ヒ左舷二三鏈ノ距離ニ當リ異常ノ破浪ヲ認ム
- 五時〇分 左舷ニ並航スルトキ橋ノ尖端ヲ認ム直ニ機關ヲ停止シ端艇ヲ卸ロシ其状態ヲ概測ス
- 六時十分 之レヲ終リ復針ス

該沈船ハ百五十噸餘リノ帆船ニテ數日前ノ沈没ラシク且ツ航路筋ニアルヲ以テ甚ダ危険ナリ

磁方 針位	A 岬 NNE B 山頂 NWbN C 島 WNW	}	附近水深 6 尋
			底質 砂泥

其筋ニ報告ノ手續キヲナス準備ス

碇泊中他船出火救援ニ赴キタル記事

午 後

- 六時〇分 突然本船船尾約一鏈ノ位置ニアル帆船ヨリ火焰ノ昇ルヲ見續テ號鐘亂打ノ音ヲ聞ク
- 六時十分 端艇ニ消火器具ヲ積ミ總員消防ニ赴ク該船員ト協力シテ鎮火ニ努ム
- 七時三十分 辛フジテ其功ヲ奏ス
- 八時〇分 總員歸船ス
該船ハ大分縣佐伯町ニ船籍ヲ有スル帆船山ノ内丸ニシテ船尾室ノ火鉢ヨリ出火シタルモ船員氣付カザル爲メ此大事ニ至リタル由ナリ

投水者救助ノ記事

午 後

- 五時〇分 襟裳崎左舷五湮ニ並ブ、天候晴天海上平穩
- 六時十分 右舷詰開ニ逆轉中船尾ニアル水夫海中ニ陥入ルヲ認ム直ニ救命具ヲ投ジ本船ハ踟躕ヲナス
- 十時十分 端艇ヲ卸シ救助ニ赴ク異常ナク救助ヲナシ歸船ス
全時右舷詰開キトナシ目的ノ針路ヲ取ル
全人ハ見習水夫何某ニシテ船尾ニ於テ作業中「シート」ニ足ヲ拂ハレ投水シタルモノニシテ別ニ身体ニハ異常ナシ

航行中他船ト信號交換ノ記事

午 前

- 八時〇分 經ケ崎左舷二湮ニ並航
 八時三十分 右航側二鍵ノ距離ニアル汽船ヨリ標信
 旂ノ掲揚ヲ見ル
 直ニ停止回答旂ヲ掲ゲ之レニ應信ス
 信號要旨 (舞鶴軍港外ニ於テ實彈射撃
 演習舉行中同港ニ入ル船ハ
 注意セヨ)
 八時三十五分 其好意ヲ謝シ復針ス

吹雪ニ遭遇シ漂溺シタル記事

午 前

- 二 時 NWノ頃吹雪一層烈シク咫尺ヲ辨セザ
 ル景色トナリ荒浪益々高ク運用意ノ如
 クナラズ
 三時二十分 連續測リタル水深底質ヲ海圖ニ照合ス
 ルモ所在確カメ難シ
 三時三十分 此儘針路ヲ保タル陸地ニ接近ノ慮アル
 ヲ以テ船体浪間ニ陥ルヲ防ギツツ西方
 ニ向ケ漂溺シテ天明ヲ待ツ

十九

他船走錨シテ接觸ノ記事

午 後

- 四時十分 港内水深5尋、底質砂泥雙錨ニテ泊ス
 磁針方位 { 甲 塔 NE
 乙 樹木 NW¼W }
 五時二十分 港口ヨリ入港ノ汽船本船ノ風上ニテ投
 錨セシ模様ナルニ錨搔効ヲ奏セズ走錨
 シナガラ本船ニ接近ス直ニ應急ノ所置
 ヲナシ錨鎖ヲ延長シタルモ終ニ右舷側
 ニ接觸シ舷梯及繫留ノ「サンバン」二隻
 ヲ破壊サル
 六時十分 辛フジテ兩船ヲ隔離シ兩錨鎖ヲ安全ニ
 張合ス
 六時三十分 他船長山田重市挨拶ノ爲メ來船ス他船
 ハ横濱市ニ船籍ヲ有スル汽船生田丸ニ
 シテ機關後退効ヲ奏セズ此災ヲ惹起セ
 ル由ナリ

十八

普通貨物中ヨリ爆發物ヲ發見シタル記事

午 前

四 時 當直交代後間モナク第二艙中甲板積雜貨中ヨリ煙ヲ發スルヲ認メタル報告アリ
直ニ現場ヲ取調ブルニ某店扱ノ山一印雜貨中ニ發火物ヲ普通貨物ト偽リ積納シタルニ船体動搖ノ爲メ中味ノ摩擦ヨリ發熱出火ニ及ビタルモノト思料ス
四時三十分 同荷印ノ雜貨悉ク解裝検査シタルニ果シテ發火性ノ藥物ナリ
悉皆上甲板ニ移シ燒損ノ分ハ海中ニ投棄ス

颶風ニ遭遇シ舵機ヲ破損シタル記事

午 後

九 時 犬吠岬左舷五哩ニ航過ス
朝來平穩ノ天候俄然一變シ不良トナル
九時三十分 風力加ハルヲ以テ荒天準備ヲナス
十 時 晴雨計下降甚敷ク激浪船体ヲ弄ブ
十一時三十分 操舵鎖切斷シ間モナク舵板ヲ椀取ラレ進退谷リ危險ニ瀕ス
船尾兩舷ニ大索ヲ繰出シ辛フジテ起達
艀逆ヲ免レタルモ意ノ如ク操縦スルヲ得ズ困難ヲ極ム
十二時 風勢稍ヤ衰フノ兆アリ

甲板積貨物ヲ打荷シタル記事

午 後

五 時 風浪激シク船体非常ニ動搖ス
五時三分 右舷ヨリ崩レ入りタル怒濤ノ爲メ上甲板ニ積入レタル硫酸入りノ箱ヲ破壊セラレ
尙轉動ノ爲メ壺ニ龜裂ヲ生ジ液体流動シテ甲板ヲ燒抜クノ慮アルヲ以テ悉ク海中ニ投入ス
箇數 35個
六 時 風浪ヲ凌ギ定針航走ス

颶風ニ遭遇シ且ツ變潮ノ爲メ船位推測ヨリ著シク相違シ居タル記事

午 前

六 時 暴風漸次南方ニ變ジタルモ風力少シモ衰フル模様ナシ
七 時 雲ノ晴間ニ陸影ヲ認メタルモ鍾測ノ推定位置ト甚シク相違セルコトヲ發見ス
推定ヨリNWノ方向20哩ニ在リト概定ス
七時三十分 尙鍾測ヲ連續シ晴間ヲ待ツ

- (6) 十一月十日正午甲港ヲ出航シ乙港ニ向ケ航行ノ途中難破漁舟アリ其ノ船員ヲ救助シ午後四時乙港ニ到着シ救助シタル船員ヲ水上警察ニ引渡シタル顛末及此航海中日誌ニ記入スベキ事項ヲ假定シテ各相當欄内ニ記載スベシ
- (7) 十月十五日午前六時甲港ヲ出帆シ同日正午乙港ニ到着シ旅客及貨物若干ヲ陸上ゲシタル旨及此航海中日誌ニ記入スベキ事項ヲ假定シテ各相當欄内ニ記載スベシ
- (8) 十二月五日午前五時甲港ヲ出帆シ午前八時ヨリ天候不良トナリ午前十時甲板積荷物移動シ危険ナルニヨリ其一部ヲ投棄シ正午乙港ニ避難シタル旨及(以下前題同一ニ付略ス)
- (9) 十一月八日甲港碇泊中午前五時荷役ヲ開始シ午前八時終了續テ炭水ヲ補給シ旅客ヲ搭載シ午前九時出帆シ同日正午乙港ニ到着シタル旨及(以下略)
- (10) 某日某海航行中午後八時十五分汽船ト接觸シ左舷側ニ損所ヲ生シタルモ航海ニ差支ナキヲ以テ其儘航海ヲ繼續シタル旨及同日午後一時ヨリ午後ニ至ル航海中日誌ニ記載スベキ事項ヲ假定シテ航海日誌相當欄ニ記入スベシ

例 題 集

- (1) 某日午前八時ヨリ正午迄航海日誌ニ記入スベキ事項、正午ノ本船所在位置及此間ニ並行シタル二物標ノ方位距離時刻等ヲ假定シテ航海日誌各欄相當欄内ニ記載ス可シ
- (2) 六月十六日午前六時某港ニ到着シ同六時三十分荷役ヲ開始シ同十時終了更ニ燃料炭及飲料水ヲ搭載シテ正午出帆シタル旨及正午ノ天候、風位、風力、温度、氣壓、船首尾ノ吃水等ヲ假定シテ航海日誌ノ各欄内ニ記載ス可シ
- (3) 某日正午ヨリ四時迄ノ航海中日誌ニ記入スベキ事項ヲ假定シテ航海日誌各相當欄内ニ記載シ尙此間ニ舵機ヲ損シタルモ應急處置ヲ施シテ航海ヲ繼續シタル旨記事欄内ニ記載スベシ
- (4) 午前八時甲港ヲ發シ乙港ニ向ケ航行中前艙ニ漏水ヲ生ジ多少積荷ヲ濡損シタルモ應急處置ヲナシテ正午乙港ニ到着シタル顛末並ニ其間航海中日誌ニ記入スベキ事項ヲ假定シテ航海日誌相當欄内ニ記入スベシ
- (5) 某日午前七時三十分甲港ヲ出航シ同日正午乙港ニ到着シタル旨及此航海中日誌ニ記載スベキ事項ヲ假定シテ日誌相當欄ニ記入シ尙ホ此間ニ旅客一名海中ニ落ち停船ノ上搜索シタルモ行衛不明ナリシ旨記事欄ニ記入スベシ

- (16) 三月十日午後一時甲港ニ入り左舷錨ヲ投ジテ碇泊シタルニ午後六時天候不良トナル右舷錨ヲ投ジ兩舷錨鎖ヲ繰延ベ其他荒天準備ヲナシタル旨及此間ノ各欄ヲ假定シテ記入スベシ
- (17) 三月十八日午前四時甲港ヲ出帆シ正午乙港ニ到着シタル旨及此間ニ一燈臺及一岬角ニ並ビタル時刻方位、距離等ヲ假定シテ航海日誌相當欄ニ記入スベシ
- (18) 四月廿日午前六時三十分甲假泊地ヲ拔錨シ同日午前十一時乙地ニ到着シタル旨及此間ノ各欄ヲ記入シ尙此航行中ニ水夫一名海中ニ落チタルヲ以テ上手廻及脚躡法ヲ行ヒ本船ヲ適宜ニ操縦シ之ヲ救助シタル記事ヲ記入スベシ
- (19) 四月廿七日午後一時甲港ヲ出帆シ午後二時三十分乙港ニ到着兩舷錨ヲ投ジ碇泊シタルニ同日午後三時入港ノ一汽船本船ノ附近ニ碇泊セントシテ本船ニ接觸シ右舷梯及三號救助艇ヲ破損シタル旨及正午ヨリ午後六時迄ノ航海中碇泊中ノ各欄ニ記入スベキ事項ヲ假定シテ記入スベシ
- (20) 六月十日午後一時甲港ヲ出帆シ同日午後五時乙港ニ到着シタルモノト假定シ其出帆時ニ於ケル展帆及拔錨ノ各時刻並ニ入港ノ時ニ於ケル絞帆及投錨ノ各時刻、到着港ニ於ケル碇泊ノ位置、水深、底質及此航海中日誌ニ記載スヘキ事項ヲ假定シテ航海日誌相當各欄ニ記入スヘシ

- (11) 某日午前八時石炭ヲ滿載シタル解船二隻ヲ引キテ甲港ヲ出帆シタルモ午前十時頃ヨリ天候不良トナリ航行危険ナルヲ以テ引索ヲ切斷シ正午乙港ニ避難シタル旨及(以下略)
- (12) 二月八日午前八時甲港ヲ出帆シ十時某燈臺ヲ通過シ十時半ヨリ風位及風力變更シ輕帆ヲ絞リ二回上手廻ヲ行ヒ正午乙港ニ入港シタル旨(以下略)
- (13) 某日午前八時甲港ヲ出帆シ午後二時乙港ニ到着シ直ニ棧橋ニ繫留シテ旅客及貨物若干ヲ陸上ゲシ續テ炭水及貨物ヲ搭載シ午後八時終リタル旨及此碇泊中ノ天候風位等必要事項ヲ假定シテ航海日誌各相當欄内ニ記載スベシ
- (14) 某日午後八時ヨリ夜半マデノ航海中日誌ニ記載スベキ事項ヲ假定シテ相當欄内ニ記入シ尙此間二回ノ颯(スコール)アリテ縦帆一枚ヲ破ラレタル旨記載スベシ
- (15) 二月二十九日午後四時甲港ヲ出帆シ午後八時乙港ニ到着シ左舷錨ヲ投ジテ碇泊シタルモ午後十時二十分船体振回ハリテ碇泊中ノ他船ト接觸シ船尾ニ損害ヲ生シタル旨及(以下略)

- (26) 五月十日某海航行中午後八時十分甲燈臺ヲ右舷正横距離二湮ニ並ビ夫レヨリ北五十六度東ノ針路ヲ以テ航海中同八時四十分ヨリ濃霧トナリ乙島沖ニ假泊シ午後十一時天候恢復シタルヲ以テ航海ヲ繼續シ丙港ニ入港シタル顛末及(以下略)
- (27) 某沖航行中正午ヨリ四時ニ至ル自己ノ當直中轉覆漁船ヲ發見シタルト假定シテ救助及ビ其ノ處置ヲ航海日誌ノ記事欄ニ記入スルガ如ク詳細ニ記入セヨ
- (28) 函館港ヨリ襟裳崎ノ沖ニ於テ四時八分自己ノ當直中船首右舷ヨリ水夫一名墜落ス其現時ノ狀況及ビ處置ヲ航海日誌ノ記事欄内ニ如何ニ記入スルヤ
- (29) 某港出帆シ其後甚シキ暴風ニ遭遇シ艙口蓋板ヲ破ラレ海水浸入シタルヲ施シタル處置宜シキヲ以テ防禦シ其後天候恢復シテ無事豫定港ニ到着セリ尙暴浪激中船内ニ亂入セシ船ノ模様及操縦上如何ナル處置ヲナセシヤ又其時ノ經緯度並ニ顛末ヲ航海日誌記事欄内ニ記入スル如ク假定シテ記入セヨ

- (21) 六月十日某海航行中午後九時十分帆船ト衝突シ船首ニ損所ヲ生シタルモ航海ニ差支ヘナク又他船ハ右舷側ニ損所ヲ生シ浸水甚シク間モナク沈没シタルヲ以テ其乗組員ヲ救助シ同日十一時某港ニ入港シタル旨及同日午後八時ヨリ午後十一時迄日誌各欄ヲ假定シテ記入スベシ
- (22) 午後八時某港内ニ於テ引船中曳索切斷シテ螺旋翼ニ搦リタルヲ以テ運航不可能トナリタル顛末及其際採リタル應急處置ヲ航海日誌ニ記載スベシ
- (23) 八月二十日午後一時甲港出帆シ乙港ニ向ケ航行中暴風ニ遇ヒ波ノ爲メ本船右舷側手欄ノ一部ヲ破壊セラレタル旨及午後八時迄ノ各欄ヲ記入スヘシ
- (24) 某海航行中午後三時ヨリ荒天トナリ同三時半搭載貨物移動シ船体傾斜シタル爲メ帆檣ヲ斷シタル顛末及同日正午ヨリ午後四時ニ到ル天候、風位、風力、風壓、晴雨計、針路自差、速力汚水ノ量、乗組員ニ負傷アリタルコト並ニ遭難位置ヲ假定シテ航海日誌相當欄内ニ詳記スヘシ
- (25) 某日正午解船三隻ヲ曳キ甲港ヲ發シ乙港ニ向ケ航行ノ途午後三時ヨリ暴風雨トナリ同三時半被曳船三隻共沈没シタルモ該乗組員ヲ救助シタル顛末並ニ正午ヨリ午後四時ニ到ル天候、風位、風力、晴雨計、針路、速力、汚水ノ量、解船沈没ノ位置、交叉方位及其經緯度ヲ假定シテ日誌相當欄ニ記入スヘシ

○ 官用、船用日誌記載心得

○ 航海日誌ニハ

官用航海日誌ト船用航海日誌ノ二種アリ

○ 官用日誌トハ

商法ノ規定ニヨリ毎航海船ノ發着ノ日時及十二項ノ見出シニ係ル事柄ガ發生ノト
キ記載スルモノデアツテ必要ノ場合ニハ警海官廳ノ檢閲認証ヲ受ケネバナラヌモ
ノデアアル

○ 船ノ發着ノ日時トハ

船ガ始メノ港デ旅客貨物ヲ積ミテ出ル日時ト旅客貨物ヲ卸ロス終リノ港ニ達シタ
日時デアアル

○ 十二項ノ見出シノ事柄トハ

- 一 豫定航路ヲ變更シタルコト
- 二 人命又ハ船舶ヲ救ヒタルコト
- 三 衝突其他ノ海難ニ罹リタルコト
- 四 豫定セザル港ニ寄港シタルコト
- 五 船舶ニ於テ急迫ノ危険アリタル爲メ船長ニ於テ船舶ヲ去リタルコト
- 六 船長ニ於テ海員ヲ懲戒シタルコト
- 七 船員法第四十一條乃至第四十四條ニ依リテ處分ヲナシタルコト
- 八 船員法第四十五條ニ依リ救助ヲ求メタルコト
- 九 船中ニ於テ犯罪アリタルコト
- 十 船中ニ於テ死亡アリタルコト死亡者ノ遺産ヲ處分シタルコト
- 十一 船中ニ於テ出産アリタルコト
- 十二 其他船中ニ於テ異常アリタルコト

○ 官用日誌ノ編成方ハ

- 1部ハ 日誌ノ標題
- 2部ハ 官廳記事
- 3部ハ 記載事項ノ頁數
- 4部ハ 3部中、十二項中ノ六、七、九、十ノ各項ニ該當シタル海員ノ氏名職名ヲ記載スル頁
- 5部ハ 發着年月日時
- 6部ハ 3部中事項發生ノトキ其顛末
- 7部ハ 出生者アリタルトキ
- 8部ハ 死亡者アリタルトキ

○ 官廳記事トハ

船長ガ報告、檢閲或ハ認証ノ爲メ提出シタトキ官廳ガ記事ト認証ノ印ヲ押ス場所デアアル

○ 十二項ノ見出シニ關スル記入法ハ

6部ニ番號(一項乃至十二項ノ)發生年月日時、發生ノ場所、記載ノ年月日及顛末記事ヲソレ々各欄ニ記入ス

3部相當各欄ノ下「記載ヲナシタル頁數」ニ6部ノ頁數ヲ書キ索引トス

○ 其事項ガ船員ニ關スルトキハ

4部ノ頁ニ「氏名」「職名」ニ「記載ヲナシタル頁數」ノ各欄ニ記入ス

○ 顛末記事ノ記入ハ

前ニ説明シタル船用日誌ノ顛末ヲ其儘記入スレバヨシ
何トナレバ船用航海日誌ニハ航海碇泊中ヲ問ハズ船内一切ノ出來事ハ詳細其記事欄内ニ記入スヘキデアアルカラ十二項ノ如キ重大ナル出來事ハ勿論記ハシテアル故ニ其レヲ流用スレバヨイノデアアル

○ 豫定航路ノ變更、豫定セザル港ニ寄港スルコトハ

内地間ノ航海ニハ別ニ關係ナシ、外航船ガ關稅ノ關係上航路外ヤ目的ノ港以外ニ寄港スルコトヲ八ヶ間敷取締ルノデアアル

○ 船員法第四十一條乃至第四十五條トハ

海員ガ兇器ヲ持ツコト、海員ガ人身、船舶、旅客ニ危害ヲ及ボスコト、海員ノ乗込ミヲ強制スルコト、海軍又ハ他ノ官廳ニ助ケヲ乞ヒタルコト等デス

○ 船中ニテ出產、死亡アリタルトキハ

7部 8部相當欄ニ記入シ船長及証人調印シテ其謄本ヲ市町村長宛ニ届出ヅル手續ヲトラネバナラス

○ 船用航海日誌トハ

此日誌ハ別ニ法令ノ規定ハナイガ從來ヨリノ慣例ニヨリ利害關係人ニ對シ各自ノ職責ヲ明カニスル爲メ記載スルモノデアツテ普通一等運轉士ガ毎日當直日誌ヨリ漏レナク轉寫シ左ニ掲グル事柄ヲ追記スルモノデアル
各欄ニハ

- 一 前日正午ヨリ當日正午マデノ直航方位及直航距離
- 二 正午ノ經緯度

三 午前及午後ノ偏差

四 海流ノ方位速力

記事欄ニハ

- 一 石炭ノ消費高
- 二 船長、海員ノ異動及異變
- 三 船員、旅客ノ異變
- 四 船舶又ハ積荷ノ處分
- 五 官用日誌記載ノ事柄
- 六 満船飾、弔旗ノ揚卸
- 七 修理ノ箇所及開始、終結ノ日
- 八 碇泊航海中海員ノ日課並ニ作業

○ 當直日誌トハ

當直運轉士ガ各自記載スル航海日誌ノ下書キデアル

其各欄及記事欄ノ記入法ハ前ニ説明ス

○ 機關日誌トハ

機關部ノ擔當スル日誌デアアル

○ 撮要日誌トハ

船用航海日誌ハ一冊二百頁位アリテ全部記入ヲ終ラネバ利害關係人ニ見セルコトガ出來ナイカラ船用日誌カラ必用ノコトヲ拔萃シテ此日誌ヲ作り船主ニ送付シ閱覽ニ供スルノデアアル

○ 航海略日誌トハ

沿海ヲ航海スル船ガ必要デナイ事柄ヲ省イテ記載スル日誌デアアル

○ 日誌記載上ノ注意

文句ハ簡短正確明カニ記載シ用紙ヲ裂タリ文字ヲ塗消ケシタリシテハイケナイ若シ訂正、挿入、削除セネバナラヌトキハ原ノ字ヲ明カニシテ外欄ニ訂正、挿入、削除ヲナシ當該者及船長ガ署名捺印ヲシテ責任ヲ明カニセネバナラヌ程大切ナモノデアアル

ノデアアル

○ 各欄ノ記載方ハ

一 航程(速力) 一時間毎ノ欄ニ毎時ノ平均速力ヲ記入ス 即チ「浬」ノ下ニ浬

數、「分」ノ下ニ十分數若ハ四分數ニテ端數ヲ記入ス

其速力ハ測程器或ハ測程機械ノ示スモノデアアルカラ海潮流ノ作用ヲ含ンデアアル故ニ海潮流ノ方位ト速力ハ嚴ニ測定シテ測算ノ際加減スベキデアアル

尙沿海ヲ航スル船ニハ「分」ノ欄ニ一時間ノ平均速力ヲ記入シ「浬」ノ欄ニハ速力ノ累計ヲ記入シテオルモノモアル

二 針路 四時間毎若ハ變轉ノ度毎、準基羅針儀ノ示ス針路ヲ記入ス

航程及針路ヲ書入レルニ當リ其時間ノ次ノ欄ヨリ記入セザレバ測算ニ違ヒガ出來ル故注意ヲ要ス

三 自差 各針路ニ對スル自差ヲ船内備付ノ自差表ヨリ拔萃シテ記入ス

四 風位 風ノ吹キ來ル方位ヲ羅針方位ニヨリ四時間毎若ハ變吹ノ度毎ニ記入

ス
船が動イテ居レバ眞風位ヲ完全ニ求メ難イ故ニ海波ノカシラ等ヲ目測シテ記入
スルノデアル

五 風力 風位ト同時ニ目測シテ記入スコレモ船が動イテ居レバ眞風力ヲ完全
ニ求メ難シ故ニ体験ト目測ニテ記入シ左ノ「ビューフォート」式風力表ニヨルヲ
常トス

風力	3	2	1	0
風	軟	輕	至輕	無風
帆船ニ與フル速サ	四節マテノ速サ	二節マテノ速サ	稍ヤ進行力アリ	風
風速	一時間		一秒間	
	約三哩以下	七ク	約一米以下	四ク
陸上風力	3	2	1	0

12	11	10	9	8	7	6	5	4
颶	暴	全強	大強	疾強	強	雄	疾	和
ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク
無帆	展帆ニ耐ニ難シ	最極限減帆	全上全縮	トツブルス、コース、スパン カーチ短縮ス	ゲルンチ收ム	ゲルン以上ノ輕帆チ收ム	ツプスルチ收ム	五節マテノ速サ
六五哩以上	六五ク	五六ク	四九ク	四二ク	三五ク	三〇ク	二四ク	二〇ク
三四米以上	三四ク	二九ク	二五ク	二二ク	一八ク	一五ク	一三ク	一〇ク
6	6	6	5	5	5	5	4	4

颶風 渦心ヲ作り旋轉スル航海者ノ颶風ヲ氣象學者ノ唱フル名
颶風 早手風、陣風トモ云フ
恒風 貿易風トモ云ヒ回歸線内ニ吹ク四季一定ノ風

信風 季節風トモ云ヒ季節ヲ定メテ偏吹スル風
 海軟風 海ヨリ吹込ムいれノ風
 陸軟風 陸ヨリ吹出スだしノ風
 向岸風 陸岸ニ吹付クル風
 向海風 海上ニ吹拂フ風
 六 天候 四時間毎或ハ變更ノ都度符號ニテ記入ス

符號	B	C	D	F	G
天候	快晴	曇 (全天三分ノ一以上 曇アルトキ)	細雨 (コアメ)	霧 (キリ)	滿天鬱黒 (亂雲垂下シタル如キトキ)
符號	Q	R	S	T	U
天候	急風 (ハヤテ陣風)	雨 (アメ)	雪 (ユキ)	雷 (カミナリ)	天候險惡 (テンコウケンラク)

符號	H	L	M	O	P
電光	(ヘウ)	電光 (イナビカリ)	烟霧 (水分ノ少ナキガス)	陰鬱 (ベタグモリ)	驟雨 (ニワカアメ)
符號	V	W	Z	Sh	
變り易キ天氣	(カワリヤスキテンキ)	露 (ツユ)	霞 (カスミ)	霰 (アラレ)	

此符號ヲ連記シテ用フ
 B.W. ハ晴天ニシテ露アルヲ示シ B.C. ハ半晴ヲ示スガ如シ
 符號ノ下ニ「・」ヲ付セバ非常ヲ示ス R・ハ大雨、F・ハ濃霧ヲ示スガ如シ
 七 晴雨計 四時間毎ニ耗又ハ吋ニテ記入シ變化甚シキトキハ毎時ニ記入ス
 八 温度 大氣及海水ノ温度ヲ氣壓ト同時ニ測リ記入ス
 九 淦水 普通四時間毎、非常ノ場合ハ刻々ニ測リ記入ス
 十 機械廻轉數 四時間毎ニ一分間ノ廻轉數ヲ記入ス

十一 喫水 船發着ノ度毎ニ船首尾ノ足入リヲ呎吋ニテ記入ス

十二 錨鎖 船首左右舷大錨ノ錨鎖延長數ヲ尋又ハ鏈(十五尋)ニテ記入ス
但此他ノ錨鎖ノ延長數ハ記事欄ニ記入ス

十三 海流 推測ト實測ノ船位ヲ比較推算シテ流レ去ル方向ト一晝夜ノ流程ヲ
記入ス

沿海ノ航海ナレバ海圖或ハ觀測ニヨルモ可

十四 偏差 航過セシ偏差ノ量ヲ海圖若ハ偏差圖ニヨリ午前午後ニ分チ記入ス

十五 正午ノ經緯度 推測及實測ニヨル船位ヲ記入ス

沿海ノ航海ナレバ海圖ニヨリ經緯度ニテ示スカ、單ニ何沖何方位何埋ト記入
ス

十六 直航方位、直航距離

前日正午ヨリ當日正午マデ一直線ノ方位及距離ヲ測算ニヨリテ記入ス
沿海ノ航海ナレバ海圖上ニヨリ直航方位ト直航距離ヲ記入ス

○ 記事欄ニ記入スベキ事柄ハ

- 一 發着或ハ出入港ノ時刻
- 二 汽船ナレバ汽機ノ發動停止、帆船ナレバ帆ノ増減
- 三 針路ノ變轉ノ時刻
- 四 燈臺岬角並航ノ時刻距離方位
- 五 鍾測ノ成績(尋數底質)
- 六 軍艦及ビ重ナル船舶ノ出會
- 七 他船或ハ陸上ト信號交換ノ事由及要旨
- 八 水先人ノ雇入、氏名、上下船ノ時刻
- 九 曳船使用及解放ノ時刻
- 十 海波ノ模様

符號	名稱	説明
9	怒濤	海面鏡ノ如キトキ
8	暴濤	船体ニ感ゼザルホドノ波
7	高濤	少シクうれリヲ認ム
6	荒浪	船体少シク動搖スル
5	荒波	輕波ヨリ稍高キ波
4	穩波	輕波ヨリ稍高キ波
3	輕波	穩波ヨリ稍高キ波
2	平滑	たかなみ
1	至平	あらかなみ
0	平穩	さかまくなみ

波長トハ波ノ頂ヨリ次ノ頂マデノ長ニシテ三百五十呎ニ達スルモノアリ

波高トハ波ノ谷ヨリ頂マデノ高サニシテ三十呎ニ及フ

波高ハ船体浪ノ谷間ニ落入タルトキ浪ノ頂キヲ水平ニ見ルマデ「リギン」等ニ昇
リソノ位置ヨリ水際マデノ呎數ニテ知ル

海軍水路部ニテ定メタル波浪ノ符號左ノ如シ

符號	波浪	説明
T S R M L H G C B	破三角浪 大強長和荒無激	破浪トハ磯浪ニシテ波浪ガ海中ノ岩若ハ洲ニ衝突シテ生ズルモノ 三角浪トハ破浪ト衝突シテ起ル三角錐狀ノ波浪ニシテ颶風ノ中心ニ生ズルモノ 大濤長濤トハ浪ガ遠キ所ヨリ傳播シ來リタルうれリテ云フ天氣晴明ノ日ニ起ルハコレガ爲メテアル 強浪、荒浪、和浪ハ海上ノ暴風強風ノ爲メニ起リ、和浪ハ和風ノ爲メ起リ、荒浪ハ強浪ヨリ弱ク和浪ヨリ強キ浪 激潮トハ潮流ガ凹凸シタル海底ヲ通過スルトキ起ル、せりしたテアル

- 十一 天候變化ノ詳細及ビ兆候
- 十二 船体、機關及船具ノ毀損、故障
- 十三、豫定航路變更並ニ豫定外ノ寄港事由或ハ潮待假泊
- 十四 投錨、拔錨時刻
- 十五 荷物ノ積卸時刻、員數
- 十六 石炭消費高
- 十七 燃料炭及船用品積納
- 十八 積荷處分ニ關スル事項
- 十九 飾旗及ビ半旗掲揚
- 二十 船内工事ノ箇所並ニ開始終了
- 二十一 船員作業ノ概略
- 二十二 船客ニ關スル異動
- 二十三 公用ヲ帶ビタル船客ノ來船

- 二十四 船長ノ交代並ニ海員ノ進退及懲戒處分
- 二十五 其他船内ニ發生シタル異常ノ事項

類		種			
雲層下最		雲層下			
Fr-Cu	Fr-S	S	Cu-N	Cu	N
片積雲	片層雲	層雲	積亂雲	積雲	亂雲
<p>層雲が山ノ端ナドチ一部分ニ蔽フタ高霧</p> <p>ちぎれ雲トイヒ積雲ガ一片ニナリテ地上ニ近ク飛アガ如キ雲デアアル</p>		<p>晴天ガ續イタトキ餘リ高クナイ空ア一面ニ蔽フタ雲</p> <p>頂ガ積雲テ底ガ亂雲デアアル夕立雲ト云フ</p> <p>綿チ重ネタ模ナ白雲テ入道雲ト云フ</p> <p>晴黒ナ黒雲テ雨雪ヲ降ラス</p>			

雲		ノ		雲		天空
雲層中		雲層上				天空
S-Cu	A-S	A-Cu	Ci-Cu	Ci-S	Ci	符號
層積雲	層卷雲	積卷雲	卷積雲	卷層雲	卷雲	種類
<p>雨ノ前後ニ出テ往々波形ナシテ天空ニ横ハル雲デアアル</p> <p>空一面ヲ蔽フタ灰乳色ノ雲デアアル</p> <p>灰色ノ大キナ塊テ塊ト塊ノ間カラ蒼空ガ見エル此レモ雨ノ兆デアアル</p> <p>晴ノ背ノヨウナ模様ノ雲テ降雨ノ前兆デアアル</p>		<p>高イ空ニ淡キ白雲ガ一面ニ廣ガツテオツテ天候一變ノ兆デアアル</p> <p>長ノ軟風ノ如キ雲テ風雨ノ前兆デアアル</p>		<p>説</p> <p>明</p>		

海士學館編纂

受驗
應用
作文
例題

中山海士學館發行

○海難報告例

○流水ノ爲メ舵ヲ破損シ豫定外ノ港ニ
入港シタル報告書

一	番	號	報	告	書
二	船	種	船	名	第一〇〇〇號
三	船	籍	港		汽船何々丸
四	積	量			何縣何郡何村
五	船	主	住	所	何縣何郡何村大字何番地
六	船	長	住	所	何縣何郡何村大字何番地
					誰野某

○海難報告例

○海難報告例

二

七 船長免狀種類番號

第〇〇號甲種船長免狀

八 發航港到達港

門司ヨリ浦鹽ニ至ル

九 發生ノ場所

朝鮮元山沖

十 發生ノ年月日時

大正〇〇年〇月何日午前六時

十一 顛末

何月何日午前六時門司港出帆浦鹽ニ向ケ航行中翌午後六時松島左舷約六哩ニ並航終夜北ノ疾風ニ向テ航進シ拂曉前途ヲ觀望スルニ一面ノ流水ニ鎖サレ針路ヲ保ツノ危險ナルヲ感ジタルヲ以テ元山ニ避難ヲ企テ進路ヲ轉ゼントスル際氷塊ノ橫流シ來リ舵面ニ衝突シ蝶番ヲ破損シタリ茲ニ於テ一時應急ノ手當ヲ施シ翌朝五時過ギ辛フジテ元山津ニ入港全所ニ於テ假修理ヲ施シ何日目ニ目的港ニ達シ本日歸港ニ及ビ候明日何々船渠ニ回航修理ノ見込ニ有之候

右報告候也

大正〇〇年〇月〇日

右 船長

誰 野

某 印

〇〇遞信局海事部御中

○帆船遭難ノ報告書

一乃至十ノ前書畧ス

右本船何月何日何港ニ於テ煉瓦及雜貨滿載朝鮮木浦ニ向ケ博多港出帆翌午前二時頃ヨリ南東ノ暴風雨トナリ減帆ノ手當中不幸ニモ轉舵鎖切斷シ運轉ノ自由ヲ失フタル一刹那船体風下ニ壓倒セラレ最早顛覆セントスル危機一髮ニ瀕シ止ムナク兩帆檣ヲ切斷シ辛フジテ危險ヲ免ル、ヲ得タル爲メ無檣トナリ風潮ニ漂流中翌日風勢衰へ波濤稍

○海難報告例

三

靜定ニ傾キタル折柄遙ニ某會社汽船ノ北清地方ヨリ歸航スルヲ認メ
信號ニテ同船ノ救助ヲ求メ對馬嚴原港ニ曳航漸ク無事ナルヲ得タリ
乗組員ニハ異狀ナシ
貨物損害左ノ如シ

○遭難帆船ヲ救助シ曳入レタル

顛末報告書

前書略ス

顛末

右本船○月○日某港出帆何地ニ向ケ航行中午前四時某沖ニ於テ帆檣
ヲ失ヒ進退自由ヲ得ス風浪中ニ漂流セル一帆船ヲ認メ直ニ同船ニ接
近視察シタルニ乗組三人無橋ノ船体ニ殘存シ生死ノ間ニ悲劇ヲ演ジ
ツ、アルヨリ全船ヲ某港ニ曳入レ全所警察署ヘ引渡シニ及ビタ

船主 ○○縣○○郡○○村何番地何某外二名

日本形船三百石積 何丸

右報告候也

○颶風ニ遭遇シタル顛末報告書

前書略ス

顛末

本月何日午前何時香港拔錨橫濱ヘ歸航ノ途中翌々何日北緯二十三度
半東經百十九度二十分ノ邊ニ於テ天候ニハ異常ナキモ晴雨計俄然沈
下ヲ初メ低氣壓ノ襲來アラントスル傾向ヲ示シタリ依テ充分ナル警
戒ヲナシツ、航行中午後三時頃ヨリ暴風雨襲來シ忽チ咫尺ヲ辨ゼザ
ル暗黒トナリ山ナス怒濤ハ八方ヨリ衝鬪シ船ハ進退ノ自由ヲ失ヒ甲
板上ノ諸具及ヒ端艇ハ悉ク怒濤ノ奪取スル所トナリ船橋ハ微塵ニ破

壞セラルル最早策ノ施スベキ様ナク海錨ヲ作リテ風浪ニ漂溺シ天明ヲ待チタリ然ルニ黎明頃ヨリ風浪稍靜マリ辛フジテ破損ノ箇所ヲ應急ニ修理シ何日午後何時基隆ニ寄港シ同所ニ於テ假修繕ヲ施シ只今當港ニ歸着ニ及ビタリ乗客船員ニハ一人ノ死傷者モ無之甲板下部ノ船体ニハ損ノ異狀無之候
右報告候也

○水夫溺死ノ顛末報告書

前書畧ス

顛末

本船事何地ヨリ何地ニ向ケ何月何日何地沖航行ノ際三等水夫何某作業中誤テ海中ニ墜落セシニ付直ニ停船百方搜索ニ及ビタルモ遂ニ其死体タモ發見シ得ズ同輩水夫等ノ陳述ヲ綜合スルニ性來水泳ノ術ニ

暗カリシ趣ニ候ヘバ投水直チニ溺死シタルモノト推斷セラルル依テ止ムナク搜索ヲ停止シ目的地ニ向ケ進航ヲ繼續シ本日午後當地着船仕候
別紙同人遺產目錄相添ヘ報告ニ及ビ候也

○航行中船客海中ニ投水シ自殺シタル

顛末ノ報告書

前書略ス

顛末

本船去ル何月何日何時大阪安治川拔錨中國各港經由門司ニ向ケ航行ノ途中翌何日播磨灘航行中看守當直者ヨリ投水者有之趣キ急報ニヨリ直チニ停船端艇三艘ヲ卸ロシ百方搜索ニ及ビタルモ時偶風浪高ク暗夜ニシテ更ラニ形跡ヲ認ムルコト能ハズ止ムナク搜索ヲ中止シ船

客ヲ取調べタル結果何縣何郡何村何番地何ノ誰ナル者一人不明ニ付
全人ニ屬スル携帶品ヲ調査セシ處其折靴中縁族ニ遺シタル書置様ノ
書狀有之此点ヨリ推斷スル所全ク自殺ヲ企テタルモノト思惟セラレ
候
尙高松港ニテ同人遺物ヲ取纏メ水上警察署へ届出置候
右報告候也

○國語作文作例集

○船友に贈る新年の祝文

新年の瑞氣四海同然仁兄には那邊にて如何に重歳せられし哉僕は恰
も好し太平洋上百八十度の波間に於て幸福なる新年を迎へ申候或る
俳人の句に

東海に波の花咲く初日哉

我を欺かずと存せられ候先づは改曆の祝辭まで縷々の情報は後便に
譲る 敬具

○春季友人に遣す文

告別以來指を屈すれば三旬曆を閲して驚かれ申候早や太陽は春分点
に接近せり座に想はるるは墨堤東台の曉、祇園嵐峽の昏、日暖かに

風軟かならん、別後仁兄の動靜欽慕に堪へず茲に一書を飛し申候小生も分袖後至て頑健帆船航海の事とて何事も今日主義にて消日罷在候航海地方の偏吹風に碎散せる浪の花を見ては吉野初瀬の霞を想ひ帆檣素具を吹く風聲を聽きては數鶯雲雀の鳴く音を偲ひつつ昨日無事當港に入船致し候名に負ふ熱帯地の事とて滿眸の風光夏ならざるはなく白衣を装ひ日中尙ほ流汗頓に春興を忘れしむ本船は當地積荷の都合にて暫時滯船の都合に有之候貴兄の温顔に接する事一日も早からん事を希望罷在候先は走筆 不備

○暑中友人に贈る文

肅啓 其後久敷御無音に打過ぎ候處本年は當地の人々も近年覺へざる炎暑と申居候時節柄仁兄には名に負ふ熱帯に近き臺灣沿岸の航海におわしませば座瓶の御苦しみと遠察奉り候起居御異狀無之哉降て

疊弟幸に無恙在船勤務罷在候乍他事御省慮下され度候疎情御詫旁暑中伺迄 不一

○中秋船友に送る文

昨今朝夕凌ぎ克くなごとは陸員の寢言にて御互ひ航海者はいやな季節殊に颱風の受付所たる御地方の航海なれば一層御心痛の事と推察奉り候併し其後は格別なる低氣壓にも御遭遇の事も御座なく哉小生の航路は貴船程の心配は先つ少きも此先き六華飛散朔風肌を裂く時節を想へば何とか船繰りの都合にて航路の変更のみ希望罷在候然し相變らず健在に候間御省慮下され度先は久濶の御詫を兼ね如斯候草々

○寒中船友に送る文

去住定まり無きは海員の常とは申しながら貴兄と某港にて會合以來

相見ざる事、實に歳餘承れば此節米國航路の由小弟は過來休船安閑と客待の境遇、久振にて陸上の朔風を爐邊に聞き階前の雪を窓間に眺め寒中の何たるは殆んど覺へなく罷在候へ共日夜吹雪に梳らるゝ貴兄の御勤勞を想へば勿体なき心地致し候然し無能休職の奴輩に伍し日々苦み居徒食の身に比しては御羨敷存られ候倍々御健全に御勉勵あらん事を祈念罷在候先は寒中御見舞まで 早々不一

○乗船報知の文

拜啓其後は慮外の御疎情に打過ぎ罷在候偕て小生儀永々休職待命中の處今回帝國丸二等運轉士として乗船兩三日の間入渠地へ回航修繕相濟候へば南米へ向け出帆の都合に有之候右御報知まで 再拜

○轉船報知の文

謹呈拙生從來日本丸に就職罷在候處今回社命により大和丸へ轉船世界一周航路に従事し不日當港解纜の豫定に有之候間御音信は本社氣付にて御發信下され候へば隨時入手仕べく候右御報まで 早々

○出帆を友人に報する文

拜啓近頃御起居如何候哉扱て本日此度某米商館との契約にて北米晚香坡に向け發航の都合にて明後日正午出帆の豫定に有之北米と南米間の航路は小生未経験にて初陣の遠洋航路に候へば萬事準備に混雜罷在候併し今回こそは兼て修得したる學理實踐の好機腕鳴り血沸くの感に耐へず候委曲は無事歸朝の上縷々御物語りに相殘し申候告別に臨み貴兄の健在を祈る

○風災後の安否を問ふ文

飛書拜呈仕候昨日の暴風雨には處々風害尠からざる趣き貴船には那邊にて在らせられ如何御凌ぎなされ候哉御異状もなかりし哉案じられ候まゝ御伺まで、草々

○遭難を友人に報する文

拜啓昨今は一層秋冷相催候貴下相變らず樂天の御生活羨望に耐ず候次に迂生事例の如く頑健船務に汲々罷在候他事ながら御省慮下され度候扱て今回本船香港より歸航の途中臺灣水道に於て遭遇したる颶風は嘗て覺へざる猛烈のものにて一時は逆も遣り切れぬものかと覺悟を極め候程に有之候併し乗組には一人の負傷者もなかりしも船体には多大の損害を蒙り夫れに付き臨時修理の爲め當港に寄港致候就れ兩三日中には出發歸航可致細事は面晤に申し盡すべく候時下不順の候尊体御自重祈り奉り候 草々不宣

○受験を勧誘する文

謹啓近來如何なる御境遇に御執務遊され候哉小生も相變らず免狀持たぬ悲しさ藁人形同様なるメツサンの下に馬の足となりて海上の舞臺を勤め居候は如何にも憤慨に堪へず淺學を願す一奮發致し去月より勉學罷在候試験の様子は格別六ヶ敷様子にも無之二三ヶ月も經過候へば不合格を覺悟して受験致さんかと存居候貴兄には普通教育の素養も充分あられ候事とて格別困難の學科も有之間敷候へば一日も早く思召立てられ度切に御勧誘申上候先は得貴意申候 敬具

○試験科目を問合す文

御互に筆無精の事とて随分御無音に打過ぎ申候僕も漸く乗船の履歴を重ね候故試験思立ち居候へ共目下海員の供給は需用に勝ち候時節

故うつかり下船を急ぐは得策にあらずと愚考罷在候依て先づ在船中
あらましの科目を下調べ致す様上級職員より勧められ候貴兄には前
々より試験に掛られ屢御経験も有之候故科目及程度御洩らし下され
間敷哉勉學中御迷惑ながら御依頼申上候 草々

○不合格となりたる友人を

慰むる文

拜啓承れば仁兄には今月の試験不結果の由御残念の程同情に堪ず候
併し試験の出来不出来は能不能に限るものに無之其時の運不運にあ
るは恰も富圖の當否に類するものなるは誰人も皆辨へ居所に候へば
大度量の君にしては意に留むる如きは萬々ある間敷と信じ居り候一
回二回の不結果何の意に介する所にあらざらん尙一層御奮勵次回の
好機を握られんことを聊か愚言を述べて貴君を慰む妄言多罪

○試験合格を通知し乗船の

斡旋を頼む文

拙者儀先月下船勉學致居本月試験相受候處僥倖にも合格致候間御悦
び下され度候登録も既に相済し居り候に付不日免狀交付相成可候間
然るべく乗船の心當り御座候へば斡旋願上候右御報知旁々御依頼申
上度此の如くに御座候 敬具

○友人の就職を祝し將來を戒むる文

拜呈承り候へば貴兄此度日本丸二等運轉士の要職に就かれ候由多年
の宿望最早其端緒を得られ慶賀の至りに御座候今や高等海員の班に
列せらるゝ御身に候へば平素の舉動態度に於ても高尚ならざるべか

らざるは今更喋々を要せざる儀に候へ共多くの海員の常として慎獨
自省の念なく免狀の資格さへ得れば高等の品位性格は自然に備はり
來れるものの如く思惟するより昨日迄の水夫なるを忘れ忽ち學識兼
備の人となりたるものと自負し動もすれば舉動傲慢に流れ世人の指
摘を受けて氣附かざるの状態は局外者より見れば何共氣の毒に存居
る有様に有之候貴兄には夙に其邊に留意あらせられ候へば小生の杞
憂ならんも榮職の御祝詞に代へ一鍼申添候 不一

○友人に交代を懇望する文

咄、快男兒近況如何嗚呼海事界の不振如何と見る斯る時機こそ玉石
混交の海員界を一掃陶冶し駿馱を判すべき好時運ならずや有爲の男
兒緊揮一番雜輩を凌駕するは此秋にありとす先すれば人を制す機失
ふべからず君は既に十二分の履歷と有福の學資を有せり一躍位置を

高むるは尋常の茶飯事のみ此際受験準備を斷行されては如何若し僕
の勸告を容るるの意あらば僕は今や轍鮒の苦中にあり幸に君の候補
者として交代就職の恩惠に浴するを得せしむるならば萬死を以て報
恩すべし筆、意を盡さず乞ふ諒察を垂れ給へ 不悉

○乗船の幹旋を謝する文

貴翰拜誦過般○○丸運轉士補欠に際し不束の不肖御推薦下され直に
御懇命のもとに會社へ參り候處直に採用の辭令に接し感謝の至りに
御座候相變らざる御親切を銘肝し斷して貴兄の御顔を汚さざる様覺
悟罷在候取敢ず御挨拶まで委曲は不日の拜眉に讓る 頓首

○人を紹介する文

拜呈益々御健勝大悅に存奉り候此書持參の者は小生同郷の舊知にて

○商船校を卒業し昨年當地にて甲種一等運轉士免狀を受有し爾後弊船にありて二運勤務罷在り性質温厚技能優秀の者に有之候へ共弊社には夫々先輩も有之早速拔擢の機會なく遺憾に存居候處貴社には受取船も夥多之有趣にて職員物色中と承り候間一應御紹介申上置候御多忙中懇縮に候へ共御引見下され候へば幸甚の至りに有之候再拜

○遭難者の遺族を慰むる文

前略再昨日の新聞紙上にて御主人乗組の渚丸遭難との記事一讀致し大に驚入候蔭ながら御主人のみは死者の列にあらざる様と祈り居りし甲斐もなく本日當地にて確報に接し正しく行衛不明との事に唯呆然たるのみに有之候生者必滅會者定離とは申しながら嗚呼儘ならぬ浮世の習なるかな貴女の胸中左こそと御察し申上候然し何程御悔みありたりとて逝きし人の歸り來るにもあらざれば何卒御氣力を確か

にして善後策を講せらるゝこそ御貞操を全ふするものかと愚考仕候就れ其内御拜眉の節萬々申述可先は略儀ながら御吊辭迄 早々

○進水式案内の文

謹呈倍々御多祥慶賀奉り候過般來川崎造船所に於て起工中の汽船○
○丸漸く落成に付き來る何日午前何時の満潮を期し進水式舉行仕度候間萬障御繰合せ御臨場の榮を賜り度右御案内迄得貴意申候 草々

○造船設計を依頼する文

拜呈時下御多祥大慶の至りに候今般遠洋漁業に使用する總噸數七八十噸の補助機關付帆船造船仕度船体堅牢機關完全に見積り明細書圖面等出來次第御持參願上度御手数ながら御依頼申上候也 敬白

○運賃の未收を督促する文

拜啓貴店御扱に係る山二印箱物壹百個前航着拂運賃○○圓未だ精算無之決算上甚だ差支へ居候間至急御支拂相成度督促に及び候也敬具

○荷受を斷る文

謹啓本船豫定の如く貴地寄港の上函館へ向け明十五日午前出港の處今回は以外にも當地の出荷夥多の爲め滿載艙内空席なく荷受け致難く候間他船に御差繰り下さる様御依頼申上候

○荷客の有無を問合す文

拜啓本船來る何日當地出帆貴地經由某地に航行の豫定に候間昨今荷客出廻りは如何の模様には有之候哉毎度御手数ながら折返し御一報願上度候 早々

○運賃を問合す文

近頃御疎情に打過ぎ候借て昨今貴地に於ける石油運賃は如何なる相場に御座候哉都合により本船差向け又々御配慮相煩度心組に候間御手数ながら至急御調査御一報下され度右御依頼まで 不備

○商況を問合す文

其後は打絶へ御疎遠に罷在候本船今春以來北清方面の航路に従事中の處本年チャター期限も最早經過候事とて今冬季間は御地方に廻船致度き心組に候間近頃御地方商況は如何に候哉御手数ながら御一報煩し度候 勿々

○貨物の損害賠償の申込みを

謝絶する文

拜復御申越の辯償の儀は御氣の毒ながら要求に應じ兼ね候該貨物は

元地積入の際荷作り不良に付貴店係員に對し一應念達の上河送り證にも中味減損無關係の摘要を相附し置き候様の次第に有之候間左様悪からず御承知相成度候也

○貨物の包装不完全なるを以て

改良を貨主に勧告する文

拜啓海上運送の状態は御承知の通り昔日とは殆んど其趣きを異に致居り候にも拘らず荷主側に於ては荷造り費を節約せられ候爲め往々中味損害の苦情を生じ運送者の迷惑尠からず候包装の粗造より生ずる損害は結局運送當事者の責任には無之候へ共商品の保全と華主への信用とを重せらるゝに於ては一日も忽緒に附すべき者にあらざるは明かなる處に御座候此邊御留意を賜り候へば双方の御利益ならん

と愚考仕候篤と御熟考願上候 不備

○出港報知の文

拜啓本船事今午後六時手仕舞致し明早朝東京へ向け出帆の豫定にこれ有候余は寄港地及び着港の都度具申致すべく候 草々

○着港報知の文

謹啓出帆以來海上平穩にて昨夕當港へ安着仕候當地商況は荷支への模様にて荷役捗り兼ねる哉も計り難くと存られ候右報知まで 草々

○新造船着手を船主に報する文

肅啓御内命に遵ひ直に當造船所に於て新造汽船工事狀況視察に及び候處當所技手の理想と實地就業上の便否との間に二三予盾の點これ有候へ共其邊は双方熟議を遂げ愈々昨日の吉辰を卜し起工式を舉行

致す様相運び申候右御報導まで 草々

○試運轉の成績を船主に報する文

謹啓豫定の通り昨日○○丸試運轉舉行致候處豫想外の好成绩にて些少の故障も無之船足の釣合舵効及機關の調節相整ひ最強速力十五節を保ち候誠に満足の結果と存られ候取あへず御報知まで 草々

○定期検査の結果を船主に

報告する文

拜啓本日豫定の通り定期検査執行相受け候處船体汽機汽關並に附屬品共格別故障これなく平易に相濟み申候此分にては次回の特別検査も左したる修理を要せずして通過の見込に有之候 草々

○船用品の増備を船主に

請求する文

拜啓本船是迄沿海航路に有之候爲め測程機械は具備せずとも差支へこれなく候處今後朝鮮並に北海道方面に差向けられ候に付ては夏季の濃霧冬季の降雪を冒し候へば測量上欠くべからざるは該機械に依る鍾測に有之候是非新式のもの一臺備付相成度此段請求に及び候也

草々

○検査期日の繰上げを

船主に具申する文

本船儀今回樺太地方航海の御内命これあり候に付ては艤装設備の完

全を要する箇所これ有り候間期間満了まで一ヶ月の猶豫は有之候へ共此際定期検査を繰上げ施行すれば航海上得策と存じられ候御都合如何に候哉御伺上候 草々

○羅針儀据付技師の派遣を

船主に要求する文

拜啓今般本船に於て原基羅針儀据替へ候に付ては遺憾なく其位置を撰定致度尙併て自差矯正をも試み度候間其向の技師へ御照會派出相成様御取計ひ下され度候 草々

○難破船員を救助したる旨を

船主に報告する文

謹啓今般元山より歸航の途中蔚山沖に於て大獵丸と申す山口縣人五人乗の漁船遭難漂流しあるを救助致し釜山港に曳入れ夫々手續を了し其筋に引渡し申し候右御報知迄 草々

○天候不良の爲め某港に避難したる

旨を船主に報告する文

謹啓本船九月一日神戸港拔錨臺灣へ向け航行翌日門司出帆後晴雨計沈下を始め空模様異常を呈し膨濤高く天候險惡の兆あり時節柄颪風を懸念致し長崎港へ寄港避難仕り候處果して同夜は非常の暴風にて碇泊の船舶にも多大の損害有りたる様子なるも幸ひ本船には何等の障りも無之安穩に相凌ぎ申候尙天候恢復次第早々解纜の豫定に有之候右御報まで此の如くに御座候 敬具

○航海中暴風に遭遇せし旨を

船主に報する文

前略本船一昨日鹿島灘に於て暴風に遭遇し多大の損害を相受けたるも難破に至らず辛ふじて當地に避難致し候尙乗組員には異常御座なく候間併せて御安堵給り度候尙損害の箇所は別紙御一覽下され度候右御通知申上候也

○遭難の状況を船主に報する文

拜啓昨日取敢ず電報にて申上候通り本船今回歸航の途中臺灣水道に於て猛烈なる颶風に遭遇致し怒濤の爲め船橋は破壊せられ煙突は倒され運轉自由を失ひ九死の中に一生を全ふするに立至り候爲めに甲板積の貨物は勿論端艇其他上甲板の設備は大半流失致し候併し幸に

も船客船員には一名の負傷者も無之候間此儀は御安神給り度候上叙の始末故應急修理の爲め止むなく當地に寄港致し候兩三日中には概略相整ひ申へくに付き準備就き次第早々出帆歸航致すべく詳細は面晤に譲り申候 敬具

○碇泊中他船と接觸し少損害を與へ

たる始末を船主に報告する文

拜啓本船一昨日入港仕候然に當港は御承知の通り潮流の變化激甚に候故充分なる餘地を見計ひ投錨に及び候處同夜入港の某汽船會社何丸本船の右舷に接近して投錨せしを以て全船に對し適當の間隔を保たれんことを警告し置きたるに夜中に付き明朝其位置を變ずべしとのことにて其儘に爲し置きたるに未明俄然風位變轉し本船は多少揚

荷の爲め船足軽く他船は満船にて喫水深かりし爲め我船体の振れ廻り早く遂に該船と接觸に及び輕微なる損傷を生じたる次第に候本件は前述の如く他船後着者にして至當の錨地を存して投錨したるものにあらず殊に前以て豫告を與へたるにも拘らず其怠慢に出でたるものなるに因り他船に於て全部賠償の責に任すべきは勿論と存じ目下交渉中に有之候右取敢ず御報告まで 草々

○碇泊中暴風の爲め錨鎖を切斷

せられ辛ふじて沖合に避難し

たる顛末を船主に報告する文

拜呈去る五日當港附近の風害は既に新聞紙上にて御承知の事と存候

實に近年稀なる天災にて本船に於ては幸に前日來の天候其他の前兆に鑑み必然斯る危難に遭遇すべきを豫期し充分警戒を加へ居たるも十六時間の久しきに涉り暴風雨の猛威を極めたる事とて少しく衰耗せる船具の如きは一として毀損せられざるはなく殊に忽然變吹したる反對の風位には碇泊船舶の大半は錨鎖切斷の爲め陸岸に打揚けられ或は互に觸衝し破壊沈没の災厄に陥りたる始末にて本船の如きも實際一錨は風壓の爲め走錨を初め抓止の力を失ふに至り俄然他の錨鎖に張力を及ぼし該錨鎖切斷したるを以て引けたる錨を收め機關を全力を掛け辛ふじて港外に避難するを得たる爲め格別の損傷なく無事なるを得申候間御省慮給はり度候右御報申上候也

○船員雇入に付き撰擇を

船主に要求する文

拜啓船内事務員中荷物方は單に技術上の人物よりも實業上の手腕ある者を採用致候方便利と存られ候御店事務員中にて篤實精行の者有之候へば一名本船へ差廻し下され候へば好都合に有之候志望者御撰擇方然るべく御取計ひ願上候 勿々

○航海先きに於て備船契約をな

したるを船主に報告する文

拜呈本船事航海異狀なく豫定の如く昨日午後二時着港直に積荷陸揚に着手致候間遅くも三日間にて取切りと相成るべく候付ては御内命の次第も有之候に付當分の中當地方沿岸の航路にて便宜自由航路に従事致す覺悟に有之候折柄不圖支那某商館よりの交渉にて營口柴提

航海にて別紙條件の許に備船方申込み有之候割合に有利の條件と愚考仕り略取極め申候間左様御承認下され度候本契約書其他委細の顛末は追便具申仕可候 敬具

○航路の現況を報じ航海廢止を

船主に勧誘する文

當樺太航路は最早冬季引揚げも終局を告げ且つ時局の爲め荷客噸に減少致し候へ共聊か信用持續の爲め至難の航海を繼續致居り他の保護航海船と競争せざるを得ざる姿に有之斯くては餘り策の得たるものに無之様考られ候刻下該航路は保護航海船に譲り暫時休航致明春解氷期に再び廻船に相成候とも別段信用上には影響無之様存られ候間冬季中他方面航海の手配り成下され度先ば御一考を煩し申し候

○解傭を船主に乞ふ文

謹啓尊堂倍々御多祥大慶至極に存候降て不省儀卒末御鴻恩に浴し未だ涓滴の功なく誠に不本意の至りに候へ共今般家事上止を得ざる事情突發致一先づ御解傭を願はざるを得ざる場合に立到り候事情御洞察の上御聽許なし下され度懇願の至有之候 敬具

○試験出題作文ノ類別

○注文ノ文

海圖○帆布○航海燈○糧米○錨○錨鎖○檣材○帆

檣○曳綱○羅針儀○鐵製滑車○帆布製風取○信號旗○

○見舞文

洪水○病氣○近火○入院負傷○暑中○海難○火災○

留守宅ヲ○

○催促(促ス、督促)文

貨品○海圖○書物○注文船用品○運賃○

立替金○貨物積出○

○招待(誘フ)文

進水式ニ友人ヲ○郷里ノ兩親ヲ呼寄スル○試
運轉ニ友人ヲ○

○悔ム(吊辭)慰問文

海難ニヨリ溺死シタル海員ノ家族ヲ○友
人ノ家族ノ不幸ヲ○事業失敗ノ友人ヲ○遭難死去シタル船員ノ遺
族ニ送ル○海難セル友人ヲ慰問○

○紹介文

帆船實習ヲ希望スル學生ヲ帆船船長ニ○友人ヲ知己
ニ○造船所見物希望者ヲ○外航ニ經驗アル良船長ヲ推薦スル○

○詫ブル文

借入品ノ破損○破約ヲ○

○ 謝絶(拒絶、断)文 乗船○備船申込ヲ○甲板積貨物ヲ○危険物ノ積載ヲ○

○ 謝(禮狀)スル文 周旋ノ勞ヲ○遭難見舞ヲ○外國ニテ世話ニナリシ人へ禮狀ヲ○病氣見舞ヲ○留守中世話ニナリシヲ○

○ 賀(祝)スル文 病氣全快○友人ノ船長トナリタルヲ○安着○海員病院ノ設立ヲ○歸朝○合格○卒業○海外留學○

○ 問合セ文 貨物ノ着否○出帆期日○入港期日○復航積入荷物ノ種類及噸數ヲ扱店ニ○石炭相場○友人ノ宿所○入渠ノ都合ヲ造船所ニ○船底塗料ノ良否及其理由ヲ友人ニ○訪問ノ際遺失時計ニ付友人ニ○講習所○運賃○備船料市況○航路ノ狀況○家畜ノ船積及注意ヲ經驗多キ友人ニ○雇入レタル大工ノ性質技倆ヲ友人ニ

○ 未經験航路ヲ○結氷港注意ヲ○流水ニ關スル注意ヲ○

○ 依頼(頼ム、乞フ)文 積残り荷物ノ處分ヲ○船用品買求メヲ○身元保證○手傳○帆船買入方ヲ○全賣却方ヲ○借入○造船設計○物品ノ購入○船長船員ノ周旋ヲ○羅盤矯正○船長トシテ雇入レヲ○書物購入ヲ○試験申請ヲ○便乗○燃料炭購入○補佐人周旋○船員入院手續及後事ヲ代理店ニ○汽艇借用○貨物ノ吸集ヲ代理店ニ○潜水夫○就職希望ニ付紹介ヲ○經驗多キ運轉士雇入レヲ○勞働組合成立ニ付盡力○入渠期日打合セヲ支店ニ○要点ヲ注意シ六分儀(双眼鏡)購入ヲ○下船ヲ乞フ○不在中ノ監督及慰安方ヲ○紹介○

○ 通知(報知、知ラス、報ズル)文 入港○荷物到着○歸宅○轉船○轉居(移轉)○出帆期日○出帆延期○入港豫定日○下船○船長就職○試運轉ノ狀況ヲ○死去○入院○全快○著荷○組合解散○代理

署名人○海運界近況○損害貨物ノ無責任○流行病ノ豫防方法○乗船後ノ狀況ヲ恩人ニ○世界海運界ノ不況ヲ陸上ノ友人ニ○試験合格ヲ父母ニ○友人ニ○試験ノ模様○満船ニ付全部積載不可能ヲ荷主ニ○報時球ノ開始ヲ友人ニ○試運轉ノ成績○遭颶ノ狀況ヲ友人ニ○外國ニテ無電ノ發達セル狀況ヲ友人ニ○運賃ノ市況ヲ○

○ 勸告(勸ムル)文

海員トナルコトヲ○入社○便乗シテ沿岸ノ風景ヲ觀望スベキコトヲ友人ニ○海員協會入會ヲ○會社ノ設立ヲ○北米西岸諸港ノ視察ヲ友人ニ○大西洋航路ノ視察ヲ友人ニ○航路ノ開始○信號練習所入所ヲ○端艇操法練習所ノ設立ヲ○會社ノ合同ヲ○港ノ設備改善ヲ○荷役設備ノ改良ヲ○歐米ノ港ノ設備ノ視察ヲ○帆船實習ヲ○試験ヲ受クルコトヲ○英語實習ヲ○航海要具製造所ノ設立ヲ○

○ 回答(返事)文

帆布相場ニ付キ友人ニ○相場問合セニ○海難慰問狀ノ○八時間制ヲ海員ニ適用スル可否ニ付テ友人ニ○航路補助金ガ現今ノ海運界ニ及ボス影響ニ付キ知人ニ○重油ヲ燃料トスル可否ニ付知人ニ○

○ 注意(忠告)文

貨物ノ包装不良ヲ貨主ニ○始メテノ航路ニ就ク友人ニ心得ベキ点ヲ○船内衛生ニ關スル重要ナル事項ヲ告知○後進者ヲ戒ムル○始メテノ一運ニ荷役中ノ發生事項ヲ○初任者ニ船内規則ノ嚴肅ニ行フ必要アルコトヲ

○ 船主ニ請フ(要求、請求)文

代理船長ヲ○船員ノ昇給○測程機械ノ備付○水夫増員○帆及綱素○石炭庫ノ改造○夜間信號器備付○無線電信備付○船醫雇入○船員室改善○揚貨機具ノ改良○

水夫養成所ノ設立ヲ勸ムル○救命艇ノ増備○全修繕○食料ノ増額
○揚貨機ノ堪ヘザル實況起重機材料ナキヲ以テ浮動起重機ノ廻送
方○救命筏備付○膠沙ニ付曳船○遠洋航路希望○事務人一名増員
○醫療器械備付○飲料水槽ノ増備○入渠修繕ニ際シ検査官吏出張
ノ日時打合セヲ○

○船主ニ報告(通知、具申)文

荷役ノ模様○水夫行衛不明○

避難○沈没船發見○颶風ノ爲メ陸岸ニ吹揚ゲラレタル○出帆期日
ヲ早メタル理由○某所ハ近來水淺ク指定地マデ行クコト困難ナル
旨○舵破損ノ狀況○帆ヲ吹破ラレタル○他船ト接觸ノ詳細○坐礁
○颶風ノ爲メ船体船具破損○入渠修繕ノ箇所○流水ニテ推進機破
損○濃霧延着○普通海員ノ近況○休日ニテ荷役延期○人夫同盟罷
業ニテ出帆延期○試運轉ノ成績(良好、不良)○火災○燃料炭ノ欠乏○

航海中ノ模様○船員傳染病○颶風ニ遭遇シ甲板積貨物動搖シテ舷
側ヲ損傷シタル顛末○乗客行衛不明○船内衛生狀態○螺旋翼折レ
漂流中他船ニ救助顛末○衝突及人命救助ノ顛末○流水○水夫長ノ
成績○乗客分挽ヲナシタル手續ノ詳細ヲ○颶風ニテ沖合ニ漂溺シ
食物欠乏シテ饑餓セントシタル狀況○暑熱ニ惱サレ延着○惡疫豫
防○新船設計ニ際シ從來船舶欠点ヲ指摘シ改良意見ヲ報告○季節
ノ關係上大圏航法ニヨラザリシ○危險物荷打○普通海員待遇上ノ
報告○密航者送還顛末○外航ニテ日本乗組員ノ最モ苦痛トスル所
ヲ報告シ尙希望ヲ述ブル○火災船ノ船員救助○漏水發見處置損害
程度○帆船救助曳航○新寄港地ノ荷役設備ノ現狀○暗車軸折斷帆
走ノ顛末○燃料炭欠乏シ積荷ノ一部ヲ使用シタル始末○不正商人
ヲ報告シテ今後ノ注意ヲ促ス○船費ノ冗費節約意見ヲ具申○

○ 雜文

就業申込○申込ヲ取消ス○遠方ニ行ク友人ニ送ル○恩人ニ土産物ヲ添ヘテ送ル○友人ノ送別會ニ缺席セル理由ヲ述ヘ其友人ニ挨拶スル○冷蔵庫用水ヲ出帆二時間前ニ積終ルベキ様支店ニ要求スル○保險會社ニ契約申込○注文セシ船用品ノ未着ニ付船具店ヲ責ムル○新設汽船會社ノ開業披露○支拂ノ猶豫ヲ乞フ○支店開設披露○海員救濟組合設立ニ付富豪ヘ寄附金ヲ願フ○始メテ職員トナリタル所感ヲ友人ニ告グル○海員ノ國際勞議ニ關スル所感○借入物品ヲ返却スル○殉職海員ノ吊慰金募集書○

○ 官公署ヘ建議(報告)文

港内釣船ノ取締ヲ其筋ヘ○某燈臺ノ改善ヲ遞信大臣ヘ○漂流物ノ發見ヲ水路部長ヘ○暗礁ノ位置誤謬アルコトヲ水路部ヘ○投身者救助ヲ其筋ヘ○其島嶼ノ位置ハ海

圖上ノ位置ヨリ其方位何湮ニアルコトヲ海軍水路部ニ○船舶通航信號所ヲ設置セラレシコトヲ其筋ニ○航海中水雷ニ觸レ船体ニ損所ヲ生ジタルヲ其筋ニ○

海士學館編纂

航海術
術語界說

中山海士學館圖書部

東京海上通商會社
東京海上通商會社
東京海上通商會社
東京海上通商會社
東京海上通商會社

航海ニ關スルニ用語之説明

(1) 圓体

孤面ヲ以テ包圍セル圓形体ヲ云フ

(2) 中心

其表面ヨリ等距離ニアル唯一ノ点ヲ云フ

(3) 半徑

中心ヨリ表面ニ達スル直線ヲ云フ

(4) 直徑

中心ヲ貫キ其兩端表面ニ終ル直線ヲ云フ

(5) 截面

平面ニ依テ切斷セラレタル体ノ切口ヲ云フ即チ截面
ノ外周ハ圏ナリ

二

(6) 大圏

中心ヲ貫通セル面ニ依テ切斷セラレタル圓体截面
ノ周縁ヲ云フ

(7) 小圏

中心ヲ貫通セザル面ニ依テ切斷セラレタル圓体截面
ノ周縁ヲ云フ

(8) 軸

圏面ニ直立セル圓体ノ直徑ヲ云フ

(9) 極

軸ノ兩端ヲ云フ

(10) 正交係

相互ニ正交スル大圏ヲ云フ

(11) 孤角

二大圏ノ交會ニ因テ作レル交叉角ヲ云フ

(12) 餘角

某角ヲ直角ヨリ減シテ餘レル角度ヲ云フ

(13) 補角

三

某角ヲ補フテ二直角トナルヘキ角度ヲ云フ

四

(14) 球

正圓ナラザル圓体ヲ概稱ス

(15) 航海術

海洋ニ在テ船ノ所在ヲ確知スル術ナリ

渺々タル海洋ヲ經緯橫行シテ鐵路ヲ違ハズ目地ヲ誤ラザルハ常ニ所在ノ位置ヲ明知スルニ因ルナリ

(16) 地球

吾人ノ生息スル大地ヲ云フ

太陽系中ノ一遊星ナル此大地ハ長徑七千九百二十五哩余短徑七千

(17) 地軸

地球自轉ヲ遂クル軸象的心軸ヲ云フ

地球ハ一時間平均約九百哩ノ速力ヲ以テ西ヨリ東ニ回轉ス其狀恰モ獨樂ノ心軸ニ由テ自轉ヲ遂クルガ如シ是大地ニ抽象的心軸ヲ存スル所以ナリ

(18) 地極

地軸ノ兩端ヲ云フ

地球ノ心軸ヲナス徑ノ兩端ノ稱ニシテ其北端ヲ北極南端ヲ南極ト稱ス又地平上ニ出現スルヲ出地極又ハ近極ト稱ス

(19) 赤道

五

兩地極ヨリ等距離ニアル大圈ナリ

「エクトル」トハ等分ト云フ原語ヨリ出ツ是レ之ノ大圈ハ兩極ヲ距ル九十度ノ處ヲ環繞シ全大地ハ該圈ニ由テ南北兩半球ニ等分セラレ因テ其名アリ而シテ海員ノ通語「ライント」ト稱ス

(20) 子午線

兩極ヲ貫キ赤道ニ正交スル大圈ヲ云フ

該線ハ赤道ト正交係ナル縱圈ニシテ又水平ニ正交シ而シテ該大圈ハ水平ノ南北點即チ子午ノ兩點ヲ通過スルニヨリ子午線ノ稱アリ而シテ其地ノ頂天ヲ通過スルモノヲ其地ノ子午線ト云フ

(21) 本初子午線 〔名原基子午線〕

經度起算ノ爲メ特定シタル子午線ヲ云フ

本初子午線或ハ原基子午線ハ各國撰ブ處一ナラズ我邦ハ明治十九年七月勅令第五十一號ヲ以テ左ノ如ク公布セラレタリ

「英國綠威(グレウヰツチ)天文臺子午線儀中心ヲ通過スル子午線ヲ以テ經度ノ本初子午線トス

經度ハ本初子午線ヨリ起算シ東西各百八十度ニ至リ東經ヲ正トシ西經ヲ負トス」

(22) 緯圈

赤道ニ並行スル小圈ヲ云フ

赤道ニ並行シ其面地心ヲ貫カザル截面ニヨリ構成セラレタル諸小圈ノ稱ニシテ此ノ同圈上ニ在ル各地ハ赤道ヨリ等距離ニ位シ同緯度ノ地ト稱ス

(23) 至規線「二名回歸線」

赤道ノ南北二十三度半ニ當ル緯圈ヲ云フ

該二十三度半ニ當ル緯度ノ地ハ北半球ニ在テハ夏至ノ季南半球ニ在テハ冬至ノ季ニ太陽頂上ニ來ルニ由リ此緯線ニ特稱アリ其南ナルヲ南回歸線其北ナルヲ北回歸線ト稱ス

(24) 極圈

極ヲ隔ツル二十三度半ニ當ル緯圈ノ稱ナリ

南北凡ソ六十六度半ニ當ル緯圈ニシテ南方ノモノヲ南極圈北方ノモノヲ北極圈ト稱ス

(25) 熱帶

赤道ノ兩側回歸線間ノ一帶ノ地ヲ云フ

(26) 寒帶

兩半球ニ於ケル極圈以內ノ地ヲ云フ

(27) 溫帶

兩半球ニ於テ回皈線ト極圈トノ中間一帶ノ地ヲ云フ

(28) 緯度

赤道ヨリ南北ニ算スル緯線ノ距度ヲ云フ

地球表面上ノ位置ヲ指定スル爲メ其表面ニ抽象的縱橫線ヲ設ケ其橫ナルモノハ赤道ニ並行セシメ縱ナルモノハ之ニ正交セシム而シテ其橫線ノ距離ハ赤道ヨリ度分秒ヲ以テ南北ニ算シ兩極ヲ九十度

トス故ニ某地ノ緯度トハ其地ヲ通過スル緯線ト赤道トノ間隔子午線上ノ距度ヲ示スモノナリ而シテ極ニ近キヲ高緯度ト稱シ赤道ニ近キヲ低緯度ト稱ス

(29) 餘緯度

天頂ト出地極トノ距度ヲ云フ

餘緯度ハ緯度ノ餘度ニシテ緯度ヲ九十度ヨリ減スレハ餘緯度ヲ得ルナリ

(30) 經度

本初子午線ト某子午線トノ間隔ヲ示ス度数ヲ云フ

地球表面ニ劃セル抽象的縱線ヲ計算スル度分ニシテ本初子午線ト赤道トノ弧ヲ東西ニ算シ地球半周即チ百八十度ニ至テ止ム其

ニ算スルヲ東經ト稱シ西ニ算スルヲ西經ト稱ス

(31) 漸長緯度

地表弧面ノ割合ヲ平面ニ保タシムル爲メ緯線ノ間隔ヲ漸伸シタル緯度ヲ云フ

地球表面ノ弧面ナルヲ平面ニ劃セン爲メ瑪氏ノ發明ニ係ル緯度ノ劃度法ニシテ經度ノ幅兩極ニ近ツクニ縱ヒ漸次短縮スルヲ同長トナス代リニ緯度幅同長ナルヲ漸次延長シテ弧面ト均シキ割合ヲ保タシメタルモノナリ

(32) 中分緯度

兩地中間ニ當ル緯度ヲ云フ

兩地中間ノ緯度トハ兩地ノ中央ニ當ル緯線ト赤道トノ間隔ニシテ

其距度ハ赤道ノ同側ニ在テ兩緯度ノ和赤道ノ異側ニ在テハ其差ヲ切半シタル度分ニ均シカルベシ

(33) 變緯

兩緯線間ノ距度ヲ云フ

兩地ノ變緯ハ兩緯線間子午線上ノ距度ニシ其間隔ハ兩地赤道ノ同側ナレバ兩緯度ノ差異側ナレハ兩緯度ノ和ニ均シカルヘシ

(34) 變經

兩經線間ノ距度ヲ云フ

兩地ノ變經ハ兩地子午線ノ交會ニ由テ作ル極角即チ兩地子午線間赤道上ノ距度ナルヘシ

(35) 東西距離

兩地經線間緯線上ノ距離ヲ云フ

兩地ノ子午線東西ノ間隔ハ兩地同緯線上ナル場合ハ其緯圈上ノ距離ナルヘキモ若シ兩地緯度ヲ異ニスルキハ其兩地ノ中分緯度上兩子午線ノ間隔距離ナルヘシ

(36) 視直鍼線

子午線ト同角ヲ保テ進行セル進航線ヲ云フ

船舶正東正西又ハ正北正南ニ進航スルトキハ緯線上若クハ經線上ヲ進航シテ違フヲナキモ若シ子午線ト若干度ノ角ヲ保テ進航スルトキハ螺線狀ニ極ニ近ツクヘシ斯ノ線路ヲ稱シテ視直鍼線ト云フ

(37) 鍼路

船ノ進行スル鍼筋ヲ云フ

船舶進行ノ方向ハ南北ヨリ點數又ハ度數ヲ以テ度ルモノニシテ船内羅盤ノ指北ヨリ度ルヲ羅盤針路磁針指北ヨリ度ルヲ磁針々路眞北ヨリ度ルヲ眞針路ト稱ス

(38) 磁氣子午線

磁針ノ指示スル南北ヲ通過スル子午線ヲ云フ

他物ノ感動ヲ受ケズ磁鍼本來ノ感動ニ由テ指示セル北點ヲ磁北ト稱ス

(39) 磁氣赤道

南北兩磁氣平均スル地ヲ區劃シタル線ヲ云フ

(40) 磁氣緯度

垂直分力ノ相均シキ地ヲ磁氣緯度ノ地ト云フ

(41) 方位

物標ノ方向ヲ云フ

物標ノ方向ハ子午線ヨリ東西ニ測ル水平角ニシテ磁氣子午線ヨリ測ルヲ磁針方位、子午線ヨリ測ルヲ眞方位ト云フ又船内羅盤針盤ニテ測リシ方位ヲ羅盤方位ト稱ス

(42) 偏差

磁針指北ト眞北トノ差角ヲ云フ

磁針ノ北方ヲ指示スルハ磁氣力ノ吸引ニ因ルモノニシテ其指點地極ト一致セザル差違各地一様ナラズ其指北點眞北ノ東ニ偏スルヲ偏東西ニ偏スルヲ偏西ノ偏差ト云フ而シテ其量ハ始終微少ノ變動アリテ一定セサルモノナリ

(43) 自差

羅針指北ト磁針指北トノ差角ヲ云フ

船体ヲ艤裝シ又ハ船内ニ積納シタル鉄物ニ感染シタル磁氣ノ爲メ磁針本然ノ指示ヲ誤ル差ニシテ時日ノ經過激震磁氣緯度ノ變移等ニヨリ變化ヲ生スルナリ

(44) 羅盤ノ違差

羅針ノ指北ト眞北トノ差角ヲ云フ

船内羅盤ノ指示スル方位ハ偏差自差等ノ影響ヲ受ケ眞方位ト一致セサルトキ其誤差ヲ稱シテ違差ト云フ

(45) 交叉方位

羅盤ニテ測リタル一標ノ水平挾角ヲ云フ

二標以上ノ水平角ニヨリ位置ヲ定ムルニ用フル測角法ニシテ船

(46) 四點方位

ノ所在ヲ定ムル等ニ施ス術ナリ

船舶航行ノ際船首角四點ト正横ノ方位ニヨリ並行ノ距離ヲ知ル測量法ナリ

船一針路ニ航進スルニ當リ船首以外ニ當ル物標ノ船首角前測ノ二倍ニ至ルヲ認ムルトキハ其兩測ノ間船ノ進行シタル距離ハ後測ノ地ヨリ物体迄ノ距離ニ均シキモノナリ

(47) 互測方位「一名相互方位」

兩羅盤ヲ對比シテ誤指ヲ測ルニ用フル法ナリ

船内羅盤ノ自差ヲ測定スル爲メ陸上ニ一個ノ羅盤ヲ据ヘ相方ヨリ方位ヲ對照スル法ヲ云フ

(48) 起程緯度

發程地ノ緯度ヲ云フ

(49) 起程經度

發程地ノ經度ヲ云フ

(50) 已達緯度

到達地ノ緯度ヲ云フ

(51) 已達經度

到達地ノ經度ヲ云フ

(52) 直行距離

兩地ヲ結ビタル直線距離ヲ云フ

(53) 航跡線

船ノ航過セシ船路ヲ云フ

(54) 風壓

風ザ落ケテ云フ

風チ一舷ヨリ受ケテ航進スルニ當リ船体所目ノ針路ヨリ下手ニ座落チシテ龍骨線ト航過線ト多少ノ差角ヲ生ス此差角ヲ稱シテ風壓差或ハ航差ト云フ

(55) 平面航法

平面三角法ニヨリ針路航程ヲ測算スル法ヲ云フ

船舶ノ海上ヲ航スルハ直線ヲ行クモノニアラスシテ弧線上ヲ進ミ針路ハ子午線ト弧角ヲナスモノナルヲ以テ針路航程ヲ精算スルニ

ハ本來弧三角法ニ據ルモノナリ然レモ球面ノ一小部分ニ在テハ殆
ント平面ニ等シキヲ以テ針路航程ヲ測算スルニ平面三角法ヲ適用
スルヲ平面航法ト稱ス

(56) 緯線航法「名東西針路」

緯線上正東或ハ正西ニ航スルヲ云フ

經線上南北ニ航シタルヲ南北針路緯線上東西ニ航シタルヲ東西針
路ト稱ス

(57) 斜針路

子午線ト若干ノ角度ヲ作りテ針路ヲ取り航スルヲ云

(58) 聯鍼路

連鍼屈折ノ航路ヲ進行スルヲ云フ

船舶航行ニ際シ岬角島嶼等ヲ廻航シテ針路ヲ轉シ或ハ逆風ニ絶航
屢々開キヲ變シテ進航シタル如キ場合ヲ云フ

(59) 中分緯度法

中分ノ緯度ニ依リ測算スル法ヲ云フ

東西距離ヲ以テ變經ヲ算定シ又變經ヨリ東西距離ヲ算出スルニ當
リ緯度中分法ヲ以テスルヲ云フ

(60) 瑪氏航法「名漸長緯度法」

漸長緯度法ニ依ル測算ヲ云フ

變經ヲ以テ東西距離ヲ求メ東西距離ヲ以テ變經ヲ算出スルニ漸長
緯度率ヲ用フル測算法ヲ云フ

(61) 大圈航法

兩地間最近ノ航路ヲ撰ミ進航スル航海法ヲ云フ

地球面上兩地間最短ノ直行距離ハ其兩地ヲ貫通スル大圈ニ外ナラ
ス故ニ遠隔セル兩地ノ最近航路ヲ取ラント欲セハ兩地ヲ通過スル
大圈弧上ヲ擇ンテ航行セサルベカラス其行船法ヲ稱シテ大圈航法
ト云フナリ

(62) 大圈ノ頂點

大圈航路中出地極ニ最近ノ一点ヲ云フ

大圈航路中ニハ最高緯度ノ一地点アルベシ此点ヲ名ケテ大圈ノ頂
点ト云フ

(63) 水平

水天ノ交界ヲ云フ

水天ノ交界ヲ結ベル線ヲ水平線或ハ地平線ト稱ス

(64) 視地平「一名視水平」

測者ノ觀望スル水天ノ交界ヲ結ベル直線ヲ云フ

大地ノ面ハ弧形ヲナスヲ以テ測者ノ眼海面ヲ拔出スルコト高キニ
從ヒ水天ノ交界ハ下方ニ潛下シテ水平上天頂ノ距離ヲ増加ス斯ノ
直線ヲ視地平線ト稱ス

(65) 地水平「一名海水平」

測者ノ立脚地面ニ觸ル、水平ヲ云フ

測者ノ眼海面ニ觸ル、トキ望觀スベキ水天ノ交界ニシテ一名居所
地平ト稱ス

(66) 眞地平

鉛直線ニ正交シ地心ヲ貫ク平面ニテ成ル水平ヲ云フ
斯ノ水平ハ地心ヲ通過スル理想的水平ニシテ天象ノ高度ヲ測算ス
ルハ此水平ニ基カサルベカラス

(67) 人造地平「名仮水平」

天象ノ高度ヲ測ル爲メ仮設スル水平ヲ云フ

此假水平ハ天象ヲ水銀盤或ハ鏡等ニ反射セシメー 仰角ヲ作リ
テ算則スル水平ニシテ之レニ使用スル器ヲ人造地平儀ト稱ス

(68) 航海天文

航海ニ應用スル天文測量ヲ云フ

天象ノ高度或ハ方位ヲ測リテ經緯度ヲ測定シ鍼差ヲ確知スル等應

用スル天文ノ科學ナリ

(69) 天球

吾人ノ常ニ觀望スル蒼穹ノ全体ヲ云フ

渺タル碧落ハ心空ノ一圓体ト假想シ大地ハ中心ニ懸リ吾人ノ天空
トシテ仰望スルモノハ其圓体ノ裏面ヲ窺フノ觀アリ故ニ天球ト稱
ス

(70) 天軸

地軸ヲ延長シテ蒼穹ニ達セシメタル抽象的心軸ヲ云
フ

吾人ノ頭頂ヲ蓋フ碧落ハ恰モ地球ト一致セル心軸ニ由リ東ヨリ西
ニ向テ回轉ヲ遂クルノ觀アリ之レ抽象的心軸ヲ存スル所以ナリ

(71) 天極

天軸ノ兩端ヲ云フ

天極ハ地極ト同シク南北ノ兩方ニ存在シ赤道以外ノ地ニ在テハ緯度ト同名ノ極ハ常ニ地平上ニ在リ異名ノモノハ地平下ニ在リ其上ナル極ヲ出地極ト云ヒ下ナル極ヲ潛地極ト云フ而シテ出地極ノ高度ハ常ニ緯度ト其度ヲ同フスルモノナリ

(72) 天赤道

地ノ赤道ト其面ヲ同フスル蒼穹ノ大圈ヲ云フ

地球ノ赤道面ヲ擴延シテ蒼穹ノ裏面ニ達セシムル片ハ天球ニ亦一大圈ヲ劃スヘシ此抽象的大圈ヲ天ノ赤道ト云フ

(73) 軌道

大地ノ年轉ヲ遂クル行道ヲ云フ

地球ハ太陽ヲ燒点ノ一二置キ毎時平均六萬八千哩ノ速力ヲ以テ楕圓ノ行道ヲ進行シ平均三百六十五日四分ノ一ニシテ一周ヲ遂ク該行道ヲ軌道ト稱ス

(74) 黃道

太陽ノ年轉ヲ遂クル視軌道ヲ云フ

軌道ヲ進行シテ年轉スル地球ハ常ニ靜止シ之ニ反シ移動セサル太陽ハ全天ヲ旋廻運行シテ一年ヲナス如キ觀ヲ呈ス斯ノ觀念的行道ヲ名ケテ黃道ト稱ス

(75) 晝夜平分點

黃道ト赤道ノ交点ヲ云フ

黄道ハ二十三度二十七分二十八秒ノ角度ヲ以テ天赤道ニ交叉ス故ニ太陽黄道ヲ進行シ此交点ニ躔スル時ヲ春分秋分ノ兩季トス晝夜恰モ等長ノ節ナリ由テ平分ノ名アリ而シテ春季ニ躔スル處ヲ春分点秋季ニ躔スル處ヲ秋分点ト稱ス

(76) 至規點

黄道ノ南北ヲ界限スル兩点ヲ云フ

太陽黄道ヲ進行シテ赤緯ノ積極ニ達シ二十三度廿七分余ニ當ル緯度ニ近ツクトキハ赤緯ノ變化微少トナリ殆ント靜止シテ移動ナキモノ、如キ觀アリ故ニ靜止(ソリシチツク)ノ名アリ而シテ此兩点ヲ通過スル緯圈ヲ至規線或ハ回版線トモ稱シ其北ナルヲ夏至線南ナルヲ冬至線ト稱ス

(77) 天頂

測者ノ頭頂ニ當ル蒼穹ノ一點ヲ云フ

測者ノ頭頂即チ天頂點ハ地平圈ノ各所ヨリ等距離ニアルヲ以テ此點ヲ地平ノ極ト稱ス

(78) 躔點

天頂點ト相反對スル一點ヲ云フ

測者ノ足下天頂點ト上下相對スル蒼穹ノ一點ヲ躔點ト名ケ天頂點ト共ニ地平圈ノ極ヲナス

(79) 天子午線

兩極及ヒ頂躔兩點ヲ通過シ赤道ニ正交スル大圈ヲ云フ

「メルシアン」トハ日ノ正中ト云フ原語ヨリ出ツ蓋シ其名アルハ太陽該線ニ正中セル一刹那ヲ以テ一日ヲ午前午後ニ平分セル瞬間タルニ因テ其稱アリ

(80) 高度圈「名垂直圈」

天頂点ヲ通過シ地平ニ正交スル垂直圈ヲ云フ

天象ノ高度ハ地平圈ニ正交スル垂直圈上ノ仰角ヲ測ルモノナリ由テ此大圈ヲ稱シテ高度圈ト稱ス

(81) 東西圈

子午線及ヒ地平圈ニ正交スル大圈ナリ

頂天ヲ通過シ正東西点ニ於テ地平圈ニ正交スル大圈ニシテ一名卯酉圈ト稱ス

(82) 六時圈

兩極ニ於テ子午線ニ正交スル大圈ナリ

天象該圈ニ躔スルトキハ午前午後ニ於テ六時ノ時角ヲ成ス故ニ六時圈ノ稱アリ

(83) 赤緯圈「名時圈」

天象ト兩極ヲ通過シテ赤道ニ正交スル經圈ヲ云フ

某天象ノ赤緯圈トハ其天象ヲ通過スル經圈ノ稱ニシテ天象ノ時角ヲ示スニヨリ時圈ト稱ス而シテ赤緯及極距ハ該圈上ノ距離ヲ算スルモノナリ

(84) 赤緯

赤道ヨリ天象ニ至ル赤緯圈上ノ距度ヲ云フ

赤緯ハ天象ノ緯度ヲ示スモノニシテ天象天赤道ノ北ニ在ルトキハ其天象ハ赤緯北ト稱シ南ニ在ルトキハ赤緯南ト稱ス

(85) 極距

天象ト出地極トノ最近距度ヲ云フ

天象ノ極距トハ其天象ヨリ出地極ニ至ル赤緯圈上ノ距度ニシテ赤緯ト緯度同名ナレハ赤緯ノ餘度ヲ以テ度リ異名ナレハ赤緯ニ九十度ヲ加タル度数ヲ以テ度ルナリ

(86) 赤經

天象ヲ通過スル赤緯圈ヨリ春分点ニ至ル赤道上ノ距度ヲ云フ

赤經トハ本來天象ノ經度ヲ示スモノニシテ其計算法ハ春分点ヨリ東方ニ時分ヲ以テ算シ零時ニ始マリ二十四時ニ終ル故ニ某天象ノ赤經ハ其天象ヲ通經スル子午線ト春分点ヲ通過スル子午線トニテ作ル極角ヲ云フ換言スレハ其天象南中ノ時ニ於ケル春分点西方ノ時角ナリ

(87) 黃緯

天象ノ黃緯トハ黃道ヨリ天体ニ至ル正交圈上ノ距度ヲ云フ

黃道ニ關係シテ天体ノ位置ヲ示ス南北ノ距度ニシテ約言スレハ黃道ヲ赤道ト見做シテ測度スル緯度ナリ

(88) 黃經

黄道ニ就テ天象ノ位置ヲ示シタルモノナリ

天象ノ黄經トハ春分點ヲ通過スル黄道ノ正交圈ヲ原基トシテ其天象ヲ通過スル正交圈ニ至ル黄道上ノ距度ヲ示スモノナリ

(89) 高度

地平線上ノ仰角ヲ云フ

天象ノ高度トハ地平圈上垂直ノ距度ニシテ南面シテ測リタルヲ南ノ高度ト云ヒ北面シテ測リタルヲ北ノ高度ト稱ス

(90) 天頂距

天象ヨリ天頂ニ至ル高度圈上ノ距度ヲ云フ

某天象ノ天頂距トハ其天象高度ノ余度ニシテ其レニ方位ヲ配スルニハ天象ヨリ天頂ノ方向ニヨリテ定ムヘシ

(91) 測高度

測器ヲ以テ測リ得タル其儘ノ仰角ヲ云フ

六分儀或ハ八分儀ヲ以テ測リタル視地平上ノ測仰角ナリ

(92) 測器差

測器ノ構造ニヨリ劃度ノ起点ニ差アルヲ云フ

六分儀或ハ八分儀ニ於テ劃度ノ起算点本弧内ニ初マルモノアリ又弧外ニ初マルモノアリ斯ノ如キ差ヲ測器差ト稱ス

(93) 潜地差

視地平上ノ高度ト居所地平上ノ高度トノ差ヲ云フ

測者ノ眼地球面ヲ抜ク若干ノ高サニアルトキハ天象ノ仰角居所地平上ノ高度ヲ超過スヘシ是レ眼高ニ由テ生スル潜地差ナリ

(94) 視差

地水平上ノ高度ト眞地平上ノ高度トノ差ヲ云フ

地球表面ニ在テ觀測スル天象ノ仰角ハ地心ニ在テ觀測スルヨリモ低キヲ常トス其量天象地平ニ在ルトキハ積極ニシテ天頂ニ在ルトキハ消極ニ達シ零トナルベシ

(95) 地平視差

天象地平線ニアルキノ視差ヲ云フ

天象地平線ニ在ルキハ視差ノ積極ニシテ其量ハ其天象ニ在テ觀測セル地球半徑ノ挾角ニ均シキモノナリ

(96) 半徑差

天象半徑ノ挾角ヲ云フ

日月ノ如キハ中心ノ仰角ヲ測定スルハ至難ノ業ナルガ故ニ其下邊若クハ上邊ノ高度ヲ測リ夫レニ此半徑ヲ加減シ中心高度トナスモノナリ

(97) 大陰半徑漸長率

太陰ノ高度増加ニ從テ半徑ノ挾角ニ生スル差ヲ云フ

太陰ハ天体中地球ニ最モ近ク其中數距離地球半徑ノ六十倍四分の一ナリ故ニ地平線上ニ觀ルト天頂ニ近ク觀ルトニ由テ半徑ノ挾角ニ差ヲ生ス而シテ其差ハ高度増加ニ從テ漸々増大スルモノナリ

(98) 濛氣差

氣圍氣ノ爲メ生スル高度ノ差ヲ云フ

日夜碧落ニ現出スル天象ハ其光線地上ノ氣圍氣ヲ透過シテ吾人ノ

眼中ニ入ルモノナレバ其氛圍氣通過ニ際シ光線屈折ノ定則ニ從テ其位置ヲ變ス此差ヲ濛氣差ト稱ス

(99) 視高度

地水平上ノ天象高度ヲ云フ

測器差及潜地差ノ改正ヲ經タル高度ヲ云フ

(100) 眞高度

地心ト天象ヲ結ヒタル線ト眞地平トニヨリ造レル仰角ヲ云フ

視高度ニ氣差視差ノ改正ヲ經タル高度即チ地心ニ在テ觀測セララル、理想的天象ノ仰角ナリ

(101) 子午線高度

天象子午線ニ正中セル高度ヲ云フ

天象子午線ニ正中セル高度ハ眞南北ニ當リ幾ント最大ノ高度ナルヲ以テ緯度ヲ算スルニ便ナリ

(102) 時角

天象ノ赤緯圈ト子午線トノ交會ニ由テ作ル極角ヲ云フ

時角ハ子午線ノ東西ニ成立ス故ニ十二時ニ滿タサル時角ハ子午線ヨリ西方ニ算スルヲ以テ太陽ノ時角ハ常ニ眞時ト其量ヲ同フシ十二時ヲ超過スル時角ハ子午線ヨリ東方ニ算スルヲ以テ眞時ヲ二十四時ヨリ減シ子午線東側ノ極角ヲ以テ午前ノ時角トナス

(103) 方位角

子午線ト高度圈ノ交會ニ由テ作レル天頂角ヲ云フ

其天象ノ方位角トハ南北點ヨリ其天象ヲ通過スル高度圈ニ至ル水平圈上ノ距度ニシテ南北點ヨリ地平圈上ヲ東西へ百八十度ニ測ルナリ

(104) 出沒方位

東西點ヨリ天象ノ出沒點ニ至ル地平圈上ノ距度ヲ云フ

太陽ノ出沒方位トハ日出或ハ日沒ニ際シ太陽ノ中心地平圈ニアルトキ其高度圈ト東西圈ノ交會ニ由テ作ル天頂角ニシテ東西圈ヨリ南或ハ北ニ計ル太陽出沒點ノ水平角ナリ而シテ赤緯南ナレバ東西圈ヨリ南ニ算シ赤緯北ナレバ北ニ算ス

(105) 太陽年

太陽春分点ニ躔シ翌年再ヒ同点ニ躔スル間ノ日子ヲ云フ

春分点ハ毎年五十秒二二ツ、太陽ノ運行ヲ迎ヒテ赤道東ニ遷移ス故ニ太陽ハ天ノ三百五十九度五十九分九秒七八ヲ運行シテ一年ヲ劃スルモノ、如シ斯ノ一期間ヲ太陽年ト云フ

(106) 恒星年

太陽一タビ某恒星ニ躔シテヨリ翌年再ヒ同恒星ニ躔スル迄ノ間隔ヲ云フ

地球軌道ヲ運行スルニ際シ太陽ヲ天ノ一方某星座ニ望ミ翌年再ヒ同座ニ望ムニ至ルモノハ地球全ク軌道ヲ一周シ終リタルモノニシテ太陽ハ恰モ天ノ三百六十度ヲ旋轉シタルノ觀アリ此間ノ日子ヲ

恒星年ト云フ是レ恒星年ハ太陽年ト同一ナラザル所以ナリ

(107) 中數太陽年

平均ノ太陽年ヲ云フ

太陽年ヲ平均シ三百六十五日五時四十八分四十七秒八ヲ以テ一年ト通算スル期間ナリ

(108) 常用年

普通常用ノ歴年ヲ云フ

普通常用歴年ハ中數太陽年ノ奇零以下ヲ去リ三百六十五日ヲ以テ平均一年トナシ殘余ノ端數ハ積算四年毎ニ三百六十六日ノ閏年ヲ挾入シ尙ホ其僅少ナル過剩ヲ平均セシメ爲メ每百年目ニハ閏年ノ挾入ヲ廢シテ適合セシメタルモノナリ

(109) 太陽日

太陽某地ノ子午線ニ正中シ翌日再ヒ同子午線ニ正中スル間ノ一日ヲ云フ

晨ニ東天ニ昇リ夕ニ西海ニ没スル太陽ノ視動ニ由テ劃セラレ、一日ハ些少ノ長短アリテ均一ナラス是ノ差アル所以ハ約太陽二十三半ノ傾角ヲ以テ赤道ニ交叉セル黃道ヲ進行スルニヨリ其理想上移動速力ノ遲速均一ナラザルニ起因スルモノナリ

(110) 恒星日

某恒星或地ノ子午線ニ中シ翌日再ヒ同子午線ニ中スル一日ヲ云フ

恒星兩度南中ノ期間ハ地球地軸上ニ就テ全ク一回轉ヲ遂ケタル時

間ニシテ一年ヲ通シテ均一ナリ然ルニ太陽ハ之レニ異リ其一日ヲナスハ地球軌道ヲ運行シツ、軸線上ヲ自轉シ太陽ニ兩回正面シテ一日ヲ成スモノナルガ故ニ太陽日ノ正午ハ恒星日ノ正午ニ後ル、
 平均三分五十六秒五五余ニシテ一年ノ終ニ及ンテ全ク一日ノ差ヲ生スルニ至ルベシ

(111) 平日

計算ノ便ヲ謀リ平均シタル太陽日ヲ云フ

太陽ノ子午線ニ正中シテ一日ナナス期間ハ年中均一ナラス故ニ其儘ニテハ計算ノ困難ナルノミラス時辰ヲ時計ニ蓄ヒ便宜ノ檢閲ニ供スル能ハス由テ日々一定ノ速力ヲ以テ運行スル太陽アリテ均一ノ間ニ一晝夜ヲナスト假定シ一日トシテ通算シタルモノナリ

(112) 想像太陽

周年平均ノ速力ニテ運行スル抽象的太陽ヲ云フ

太陽真ノ運行ハ通年均一ナラサルヲ以テ爰ニ日々均一ノ速力ヲ以テ運行スル抽象的太陽ヲ設ケテ通年一樣ノ期間ニ一晝夜ヲ成スモノト假定セリ名ツケテ想像太陽ト云フ

(113) 恒星時

春分点ノ時角ヲ云フ

某地ノ恒星時トハ春分点運行ニ由テ示ス西方ノ時角ニシテ換言スレハ其地ノ子午線赤經ヲ示スモノナリ故ニ一名子午線赤經ト稱ス

(114) 眞時

太陽真ノ運行ニ由テ示ス時辰ヲ云フ

太陽ノ赤緯圈ト子午線トノ交會ニ由テ作ル極角ハ太陽眞ノ運行ニ由テ示ス時辰ニシテ即チ日時計ノ示ス時辰ナリ

(115) 平時

四六時ヲ以テ平日一晝夜ヲ組成スル時辰ヲ云フ

日々均一ナル速力ヲ以テ旋轉セル抽象的太陽ノ運行ニ由テ示ス時辰ニシテ該太陽ノ子午線ニ正中ノ時ヲ以テ平時ノ正午トス而シテ此平時ハ眞時ト一致スルヲ甚稀ナリ其差ヲ平時法ト稱ス

(116) 時差率「名平時法」

眞時ト平時トノ差ヲ云フ

眞時ハ常ニ長短アリテ均一ナラス平時ハ中數ノ時辰ニシテ常ニ均一ナリ故ニ兩時常ニ多少ノ差アリ此差ヲ稱シテ平時法トモ云フ

(117) 天文時

正午ヨリ一連二十四時ニ算スル時辰ヲ云フ

天文測量ニ於テハ時辰ヲ計算スルニ午前午後ノ別ナク正午ノ一刹那ヲ以テ一日ノ開始即チ零時トナシ夫レヨリ一連二十四時ヲ算シ翌正午ニ至ルモノナリ

(118) 常用時

吾人日常稱用スル時辰ヲ云フ

吾人平常時辰ヲ計算スルニハ夜半ヨリ起算シ翌夜半ニ終ル時辰ノ計算法ニシテ正午前十二時間ヲ午前正午後十二時間ヲ午後ト稱ス

(119) 子午線中時

天象子午線ニ正中スル一瞬時ヲ云フ

凡テ天象ハ全天ヲ一周スルニ際シ上下ニ於テ兩度子午線ヲ經過ス
故ニ測者ノ緯度ヨリ小ナル極距ノ天象ハ常ニ地平下ニ沒スルヲナ
ク極ノ上下ニ於テ兩回ノ子午線經過ヲ觀望シ得ヘキモノナリ太陽
ノ如キハ緯度六十六度半以上ノ高緯度ノ地ニアラサレハ兩回ノ子
午線經過ヲ水平上ニ觀望スルヲ能ハス我邦ノ如キハ常ニ水平上ニ
於テ太陽子午線經過ヲ觀ルハ南天ニ限ルベシ故ニ太陽子午線ニ正
中スルヲ南中ト云フ

(120) 真正午

眞ノ太陽子午線ヲ經過スル一刹那ヲ云フ

太陽子午線ニ正中シタル瞬時天文時ノ初期即チ眞時ノ零時ナリ

(121) 平時ノ正午

想像太陽子午線正中ノ時ヲ云フ

想像太陽ノ子午線正中ノ時ヲ平時ノ正午ト云フ

(122) 標準時

各國政府ニ於テ特ニ定メテ其國一般ノ標準トセル時
辰ヲ云フ

本朝ニ於テハ明治十九年七月勅令第五十一号ヲ以テ明治二十一年
一月一日ヨリ東經百三十五度ノ子午線時ヲ以テ本邦一般ノ標準時
ト定メラレタリ

(123) 海流

一方ニ流ル、洋中ノ表面流ヲ云フ

海水温度ノ不平均ト連吹風ノ作用ニ起因シ海洋中ニ起ル一定皮流ヲ云フ

(124) 潮汐

太陽太陰ノ引力ニ因テ湖海ノ水面膨張スルヲ云フ

潮汐ノ起ルハ太陽太陰兩引力ノ作用ニ因テ起ルモノナレト陰ハ太陽ニ比スレハ其距離甚ダ近ク其引力ノ割合ハ七ト四ノ如シ故ニ潮ノ干満漲落ハ專ハラ太陰ノ引力ニ關スルモノ、如キ觀ヲ呈ス

(125) 朔望潮

月ノ朔望ニ起ル潮汐ヲ云フ

月朔ノトキニハ太陽太陰ハ共ニ地球ノ同側ニ在テ吸引シ望月ノトキニハ太陽太陰相對シテ吸引スルカ故ニ水面甚タシク漲落ス此朔日ニ起ルヲ朔潮望日ニ起ルヲ望潮ト云フ

(126) 漲落潮

漲落ハ潮ノ進退ヲ稱スル語ニシテ差潮ヲ漲潮引潮ヲ落潮ト云フ

(127) 升降潮

升降ハ潮ノ満干ヲ稱ス滿潮ヲ升潮干沙ヲ降潮ト云フ

(128) 潮流

潮汐漲落ノ爲メニ起ル流動ヲ云フ

(129) 大小潮

朔望ニ起ル最高満潮ヲ大潮兩弦ニ起ル最低満潮ヲ小潮ト云フ

最高ノ満潮ハ朔望ニ起ラスシテ一日或ハ二日ノ後ニ起リ最低ノ満潮モ亦上下弦ノ當日ニ起ラスシテ同シク一二日ノ後ニ起ルモノナリ此期間ヲ潮齡ト云フ

(130) 小潮升

大潮ノ升高ヲ大潮升小潮ノ升高ヲ小潮升ト云フ

(131) 大小潮差

大潮ノ満干差ヲ大潮差小潮ノ干満差ヲ小潮差ト云フ

(132) 潮時率二名變潮時

朔望ニ大陰子午線經過後満潮ニ至ル迄ノ時間ヲ云フ

(133) 半潮

半満チノ漲潮ヲ云フ

(134) 半續潮

高潮後漲流ノ三時間續クヲ云フ

(135) 小半續潮

高潮後一時三十分間漲潮流ノ續クヲ云フ

(136) 日潮不等

毎日午前ト午後ト潮ノ高低不等ナルヲ云フ

(137) 週潮不等

一週間ノ高低ニ不等ヲ生スルヲ云フ

(138) 潮憩

漲落ノ停息スルヲ云フ

(139) 駛潮一名競潮

狭キ水道或ハ潮流ノ衝突又ハ海底ノ不平ヨリ生スル激流ヲ云フ

(140) 順潮

風ト潮ト其方向ヲ同フスル潮流ヲ云フ

(141) 逆潮

風ト潮ト方向相反スル潮流ヲ云フ

(142) 海風

斯ノ風ハ夏季昏暮海濱ニ起ル風ニシテ其原由ハ日没後ハ海陸ノ熱度頓ニ變ジ空氣ノ不平ヲ生スルヨリ起ルモノナリ

(143) 陸風

陸ヨリ海ニ次ク風ヲ云フ

斯ノ風モ海濱ニ起ル風ニシテ太陽一旦地平上ニ現ハル、キハ陸海
温度頓ニ不平均ヲ生シ爲メニ起ル氣流ナリ

(145) 恒信風二名貿易風

回飯線内ニ定吹セル四季不易ノ風ヲ云フ

(145) 信風二名季候風

季節ヲ限リ一定ノ方向ニ連吹スル風ヲ云フ

(146) 颶風

渦心ヲ造ツテ旋轉進行シテ強吹スル一種ノ暴風ヲ云
フ

斯ノ風ノ起因ハ一局部ノ空氣頓ニ稀薄トナルヨリ其周圍ニアル濃
厚ノ空氣俄ニ浸入シテ平均ヲ得ントスルヨリ起ル激烈ナル空氣ノ
流動ナリ發生ノ地方ニヨリ大風「サイクロン」「ハリカン」トノ稱
ナリ

(147) 颶

一方向ニ吹ク強風ヲ云フ 又颶風ヲモ云フ

(148) 颶

一陣ノ暴風即チ早手風ヲ云フ

(149) 變風

方向一定セサル風ヲ云フ

(150) 運用術

船舶ヲ操縦スル術ヲ云フ

(151) 右舷開キ

風ヲ右側ニ受ケ風位ニ遡向スルヲ云フ

(152) 左舷開キ

風ヲ左側ニ受ケ風位ニ遡向スルヲ云フ

(153) 詰開キ

最極限ニ遡向セシメテ航走スルヲ云フ

(154) 逆轉一名上手廻シ

詰開キニ航走中風ヲ他舷ニ受換ユル法ニシテ船首ヲ一旦風位ニ向ケ十二點ノ回轉ニテ風ヲ他側ニ受ケ換ユル法ヲ云フ

(155) 順轉一名下手廻シ

船ヲ一旦風下ニ廻シテ船尾風トナシ漸次回轉シ二十點ノ廻轉ヲ以テ風ヲ他側ニ受ケ換ユル法ヲ云フ

(156) 船尾回轉法一名下手小廻シ

船ヲ一旦風ニ遡向セシメテ進行ヲ抑止シ然シテ順轉ヲ行フ法ニシテ逆轉ヲ誤ルカ順轉ヲ行ヒ難キ狹隘ナ

ル場合ニ行フ法ナリ

(157) 投錨逆轉 ●

陸岸ニ接近シ風浪ノ妨ケアリ順轉逆轉共ニ行ヒ難キ
場合ニ投錨ナシ回船索ヲ用ヒテ船首ヲ廻轉ナシ風ヲ
受ケ換ユル法ヲ云フ

(158) 躡脚法

展帆ノ作用ニヨリ船ヲ一進一退セシメテ停止スル法
ヲ云フ

(159) 漂躡

荒天ニ船首ヲ風ニ遡向セシメテ一所ニ停漂スルヲ云

(160) 荒天順走

暴風激浪ヲ船尾ニ受ケ航走スル法ヲ云フ

(161) 起逆

荒天順走ニ際シ船首俄然風下ニ振廻リ逆帆トナル危
険ヲ云フ

(162) 開逆

荒天順走ニ際シ船首俄然風上ニ遡向シテ逆帆トナル
危険ヲ云フ

(163) 適帆

帆船ヲ風ニ釣合スルヲ云フ

(164) 放泊

一錨ニテ振廻リ自由ニ碇泊スルヲ云フ

(165) 羈泊

二錨ニテ繫泊スルヲ云フ

(166) 守錨法

單錨放泊ノ場合風潮ノ變化ニ際シ錨鎖ヲ錨爪ニ卷絡

セザル様船ヲ操縦スル術ヲ云フ

(167) 舶用羅盤

船舶航海ノ用ニ供スル羅盤ヲ云フ

航行羅盤

(168)

舵輪ノ前ニ据置キ舵手ノ目標トスル羅針盤ヲ云フ

本位羅盤

(169)

針路ヲ定メ物体ノ方位ヲ測ル等一切測量ニ供スル羅

盤ヲ云フ

(170)

天測羅盤

天体及物標ノ方位ヲ測ル爲メ見透ヲ取附ケタル羅針

盤ヲ云フ

(171)

ピロラス(無針盤)

方位ヲ測ルニ供スル無針盤ヲ云フ

(172) 時辰儀一名經線儀

精巧緻密ナル時計ニシテ經度ヲ測算スル爲メ本初子午線時ヲ貯フルモノナリ

(173) 六分儀

反鏡ノ應用ニヨリ仰角及ヒ水平角ヲ測ル器械ナリ

(174) 晴雨計

大氣ノ濃淡即チ氣壓ヲ計ル器械ナリ

(175) 海圖

海洋、海峽、海岸、港灣等ノ形勢ヲ詳記シタル地圖ナリ

(176) 靜索

常ニ緊張シ置ク索具ナリ

(177) 動索

桅檣、桁架等ヲ回轉上下シ帆ヲ展絞スルニ用フル索具ナリ

(178) 圓材

「マスト」「ヤード」「ブーム」及「ガフ」等ノ總稱ナリ

(179) 湮

子午線一分ノ平均ノ長サ六千八十尺ヲ原位トシタル尺度ナリ

(180) 鏈

一哩ノ十分ノ一ヲ單位ニ算スル尺度ナリ

補(1) 弧

圓周ノ一部分ヲ云フ

補(2) 斜角

直角ニアラサル銳角及ヒ鈍角ヲ總稱ス

補(3) 銳角

直角ヨリ小ナル角ヲ云フ

補(4) 鈍角

直角ヨリ大ナル角ヲ云フ

補(5) 磁極

地球上磁氣最強ノ一點ニシテ其北磁極ハ北緯七十度西經九十六度四分ノ三南磁極ハ南緯七十三度半東經百四十七度半ノ地ニアリ

補(6) 北極星ノ位置

北極ヲ去ル一度十五分ノ所ニ在リ

補(7) 天体ノ高度ニ濛氣差ノ影響最モ多ク及ボス

ハ如何ナル時ニ在ルヤ

低高度ニ多ク即チ天体ヲ地平線上ニ見ル時ヲ積極トス

補(8) 天体ノ時角ヲ測定スルニ最モ佳良ナルハ如

何ナル時ニ在ルヤ

天体、東西圈ニ近キトキ並ニ高度ノ變化最モ多キト
キヲ佳トス

補(9) 漸長緯度航法ト中分緯度航法ノ用途ノ別ト

其利害得失ヲ述ヘヨ

漸長緯度航法ハ東西距離ヲ以テ經差ヲ算定スルニ
緯度ノ高低、針路ノ如何ニ關シテ差違ヲ生スルコト
ナキモ通算復雜ヲ免レス然ルニ中分緯度法ヲ用テ
算定スルトキハ赤道上及其附近ニ於テ針路角大ニ
シテ航程少ナキ時ハ漸長緯度法ニヨルモノト大差

ナキモ針路角小ニシテ航程長キモノニ在ツテハ緯
度高マルニ從ヒ其差著シカルヘシ故ニ日誌測算ノ
如キ航程大ナラサルモノハ中分緯度法ニヨリ經差
ヲ算定スルヲ便トス然レトモ航程三百海里以上ニ
達スル片中分緯度法ヲ用ユレバ差違著シキヲ以テ
改正ヲ加ヘサレバ誤謬アルヘシ

補(10) 本邦中央標準時及西部標準時ノ概要ヲ説明

セヨ

標準時トハ人事上ノ便ヲ計リ政府ニ於テ特定シタ
ル或一定地ノ時辰ニシテ本邦中央標準時ハ東經百

三十五度ノ平時正午ヲ採用シ、西部標準時ハ東經百二十度ノ子午線平時ヲ採用シタルモノナリ故ニ中央標準時ハ綠威平時ト九時、西部標準時ハ綠威平時ト八時ノ差アルモノトス

補(11) 潮流信號

瀬戸内海關門海峽、來島、長瀬戸等ニ於テ潮流ノ狀況ヲ航海者ニ知ラスル爲メ設ケタル表示ニシテ晝間ハ天秤、夜間ハ燈光ヲ以テス

補(12) 視風向

海上ノ測者カ船上ニ於テ感スル風位ハ船ノ進行ニ

ヨリ錯乱セラレタルモノヲ觀測スルモノナレハ純然タル風ノ方向ニハアラス其純然タル風位ヲ眞風位、觀測シタル其儘ノ風位ヲ視風位ト云フ

補(13) 視風力

船ノ進行速力ト合成シタル風力ニシテ船上ニ在テ觀測シタル其儘ノ風力ヲ云フ

補(14) 風力表

「ビー」ホート氏ノ區別ハ風力ヲ〇ヨリ十二迄トシ左ノ如シ

一無風 符號 〇 風

一 微風	同	1	稍や進行力あるときの風	(十哩以上十四哩の速力ある風)
一 輕風	同	2	一節より二節位の速力あるときの風	(十五哩以上二十哩の速力ある風)
一 軟風	同	3	三節より四節位の速力あるときの風	(二十哩以上二十五哩の速力ある風)
一 和風	同	4	四節より五節位の速力あるときの風	(二十六哩以上三十哩の速力ある風)
一 疾風	同	5	「ロヤル」「フライインジヤ」「ガーフトツアスル」を收むるとききの風	(三十哩以上四十哩の速力なる風)
一 雄風	同	6	「ゲルン」上の輕帆悉く收むる時の風	(四十哩以上五十哩の速力なる風)
一 強風	同	7	「ゲルン」を收むる時の風	(五十哩より六十哩の速力なる風)
一 猛風	同	8	「トツアスル」「コース」「スパンカー」短縮の時の風	(六十哩以上百哩の速力なる風)
一 劇風	同	9	「トツアスル」「コース」「スパンカー」全縮の時の風	
一 烈風	同	10	最極限の減帆せる時の風	
一 暴風	同	11	展帆に耐へ難たき時の風	
一 颶風	同	12	無帆の時	

補(15) 底荷

船脚ヲ作ル爲メ艙底ニ積納スル重量物等ヲ云フ

補(16) 壓艙水槽

水ヲ張りテ船脚ヲ調整スル爲メ艙底ニ設ケタル水槽ヲ云フ

補(17) 水密隔壁

艙内ヲ區劃シ船体ヲ強ムル爲メ設ケタル水ノ浸入セザル仕切ヲ云フ

補(18) 三杆分度儀

三物標ノ方位線ノ交會点ヲ海圖上ニ確定スル爲メ

用フル三指杆ヲ用ヒタル全圓ノ分度儀ナリ

補(19) 測深機械

鋼線索ニ錘ト水壓ニヨリ變色スル管或ハ深計ヲ取
附ケ船舶航進中海深ヲ測ル機械ナリ

補(20) 颶風ノ易避半圓

北半球ハ左半圓、南半球ハ右半圓トス

補(21) 救命焰

小罐内ニ化學的藥品ヲ詰メ海中ニ投スルトキハ海
水ノ浸入ニヨリ發焰スルモノニシテ救命浮環ニ付

着シ夜間溺者及救助ニ赴クモノニ位置ヲ知ラシム
ル爲メ用ユルモノナリ

補(22) 霧砲、霧鐘、霧角、霧笛

霧中各音響ヲ發シテ岬角、燈臺等ノ所在ヲ船舶ニ知
ラシメ警戒ヲ與フル合圖ナリ

補(23) 挂燈

航路標識ニヨリ暗礁或ハ淺洲ノ位置ヲ示ス浮標瀨
標ニ取付ケアル燈ヲ云フ

補(24) 燈質

不動 一定ノ光力ヲ持續スルモノ

閃光 短時ノ瞬間光ヲ閃發スルモノ

連閃 二個若クハ三個以上ノ閃光ヲ連發スルモノ

回轉 漸次光力ヲ増シ其頂點ニ達スレバ漸次光力

ヲ減シ漸次暗黒ニ至ルモノ

聯成不動回轉 漸次光力ヲ増シ又減スルモ暗黒ニ

至ラザルモノ

明暗 不動光ニシテ一定ノ間隙毎ニ俄然一回ノ全

暗ヲ現スモノ

復連明暗 不動光ニシテ一定ノ間隙毎ニ俄然二回

以上ノ全暗ヲ呈スルモノ

互光一名交閃 異色ノ光ヲ交互ニ發シ其間ニ毫モ

暗黒ヲ狹マサルモノ

補(25) 導燈

航路又ハ濤筋ヲ指導スル爲メ港灣海峽或ハ河川

設置セル燈標ニシテ普通高燈低燈ヨリ成ル

補(26) 破浪

海中ニ在ル岩礁又ハ淺瀬等ノ爲メ波浪ノ回轉ヲ

ラル、ヲ云フ

補(27) 乾舷

船舶力健全ナル航海ヲ果スヘキ足入りヲナシタ